

小型特殊自動車ライガーシリーズ

ELL803

取扱説明書



・ご使用前に必ずお読みください。

3735 6201 001 02

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。

また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。

なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

警告

- ・ 本書を必ず読んで内容を理解してから本製品の運転および保守・点検を行ってください。
- ・ 本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- ・ 本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

警告

- ・ 本製品は農業用の運搬車です。それ以外の用途では使用しないでください。
- ・ 本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- ・ 本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

注意





- ・ 本製品は農地などにおける運搬作業を主目的とした自動車(ダンパ)です。荷物を積載した状態での公道走行はできません。

アドバイス

- ・ 本製品は市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。交付申請の方法は「8. 小型特殊自動車登録申請の手引き」を参照してください。なお、公道運転時には、小型特殊自動車を運転することができる免許（小型特殊免許、普通免許、自動二輪免許など）が必要です。運転時は、必ず免許証を携帯してください。
-

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警 告 用 語	意 味
 危 険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重症を負う場合に使用されます。
 警 告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重症を負う可能性のある場合に使用されます。
 注 意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
 ア ド バ イ ス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

リース（レンタル）業者の皆様へ

注 意

- ・ 本製品を他の事業者または個人に貸し出す際には、取り扱い方法を明確に説明し、使用前に本書を必ず読むよう指導してください。

保証とアフターサービスについて

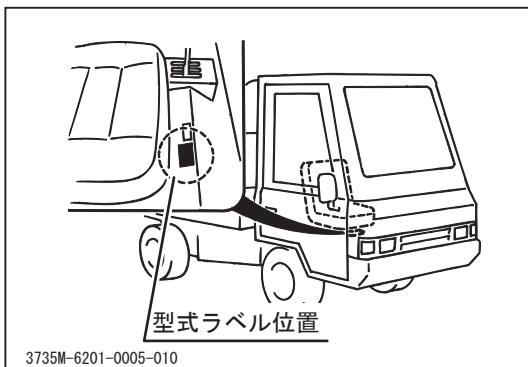
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

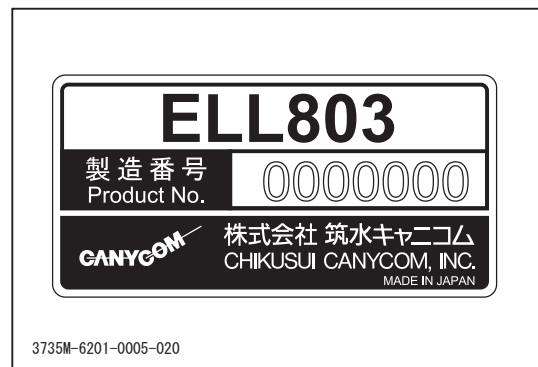
アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の「本製品の仕様」（☞11ページ）を参照してください。

型式ラベル位置



型式ラベル



補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

目 次

1. 安全に関する注意事項	1
本製品に貼付してある警告ラベルについて	1
安全運転・作業のための心得	3
運転前の心得	3
走行時の心得	4
積載時の心得	6
駐車時の心得	7
整備時の心得	8
2. 各部の名称とはたらき	9
各部の名称とはたらき	9
3. 製品仕様	11
本製品の仕様	11
付属品明細	12
4. 運転と操作	13
運転と操作	13
運転前の準備	13
運転のしかた	14
始動のしかた	14
運転のしかた	17
停止のしかた	19
ダンプ操作	21
2WD・4WD切換操作	23

5. 保守・お手入れ 24

定期点検表	24
給油・給水一覧表	28
給脂・注油一覧表	29
給脂・注油一覧表	29
消耗部品（交換部品）一覧表	30
給油	31
エンジンオイル	31
トランスミッション	32
ディファレンシャル（デフ）オイル	33
パワーパッケージオイル	34
給水	36
バッテリー液	36
清掃	38
エアクリーナエレメント	38
点火プラグ	39
フューエルコック（フューエルフィルタ）	40
調整	41
Vベルト	41
クラッチ	41
ブレーキ	43
タイヤの空気圧	45
交換	46
ヒューズ	46
使用後のお手入れ	47
通常使用後のお手入れ	47
寒冷期使用後のお手入れ	47
長期保管のしかた	48

6. 不具合発生時の処置 49

不具合診断表 49

7. 本製品の移送 53

トラックへの積み降ろし要領 53

本機での移送 54

8. 小型特殊自動車登録申請の手引き 55

小型特殊自動車登録申請の手引き 55

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

・エンジン取扱説明書

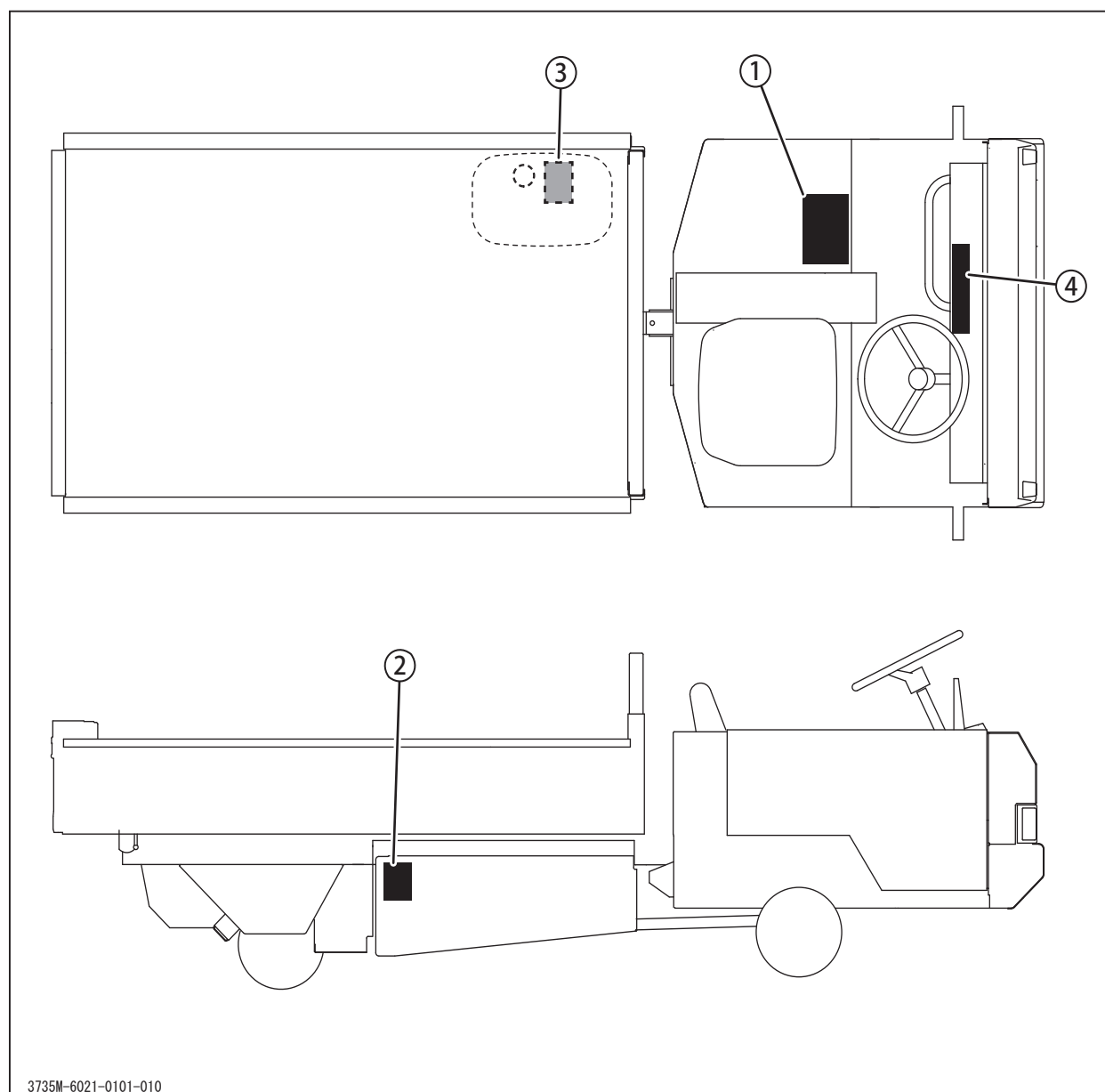
※本書とあわせて必ずお読みください。

本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。






この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

- ・ 警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。
- ・ 警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。
- ・ 警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。




3735M-6021-0101-010

① 3714 6018 000

<p>⚠ 危険</p> 	<p>⚠ 危険</p> 	<p>⚠ 警告</p> 
<p>坂道でギヤ抜けると、死傷するおそれがありますので、確実にギヤを入れてください。</p>	<p>荷台が落下すると、死傷するおそれがありますので、確実に荷台を支えてください。</p>	<p>取扱説明書を読んで、理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。</p>
<p>⚠ 危険</p> 	<p>⚠ 危険</p> 	<p>⚠ 警告</p> <p>公道乗車定員 1名</p>
<p>積荷が片寄ると、車体が転倒し、死傷するおそれがありますので、必ず積荷は均等に載せ、ロープ等で固定してください。</p>	<p>傾斜地の走行では、急停止やわずかな段差でも車体の転倒が起こり、死傷するおそれがありますので慎重に走行してください。</p>	<p>本機の公道乗車定員は1名です。同乗者を伴う運転は重心の移動等が起こり大変危険です。運転者以外は絶対に乗車しないでください。</p>

② 3421 6036 000

<p>⚠ 警告</p> 
<p>安全カバーを取外して運転したり、回転物に手を近づけると、手を巻き込まれ、けがをするおそれがありますので、絶対におやめください。</p>

③ 3709 6014 500

<p>⚠ 危険</p> 
<p>火気厳禁</p> <p>引火のおそれがありますので、火を近づけないで下さい。</p>

④ 3709 6033 000

<p>⚠ 警告</p> <p>坂道では、4駆を使用してください。2駆ではブレーキをかけた時車体が滑り事故につながる恐れがあります。</p>	<p>公道乗車定員 1名</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">37096033000</p>
--	--

安全運転・作業のための心得

運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

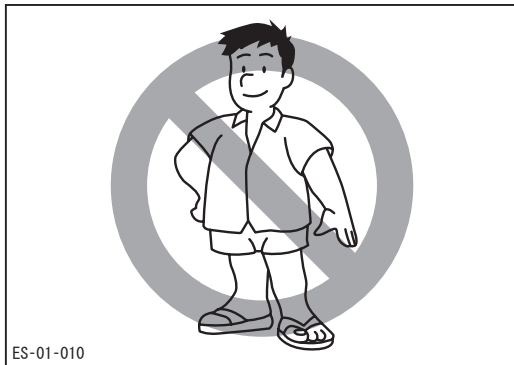
運転前的心得

免許

本製品は小型特殊自動車です。運転には小型特殊自動車を運転することの出来る免許（普通免許、普通自動二輪免許、小型特殊免許、大型特殊免許、中型免許など）が必要です。原動機付自転車（原付）免許では運転できませんのでご注意ください。

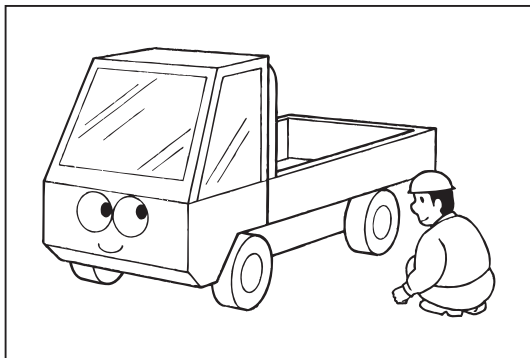
登録と保険

本製品を運転するためにはナンバープレートの取得と掲示が必要です。市町村役場などで登録を行ってナンバープレートを取得し、車体に取り付けてください。また、本製品は、自賠責（自動車賠償責任保険）に加入する必要があります。購入店や保険代理店、コンビニなどで加入して下さい。なお「小型特殊自動車」については加入ステッカーが発行されませんので貼り付け義務はありません。



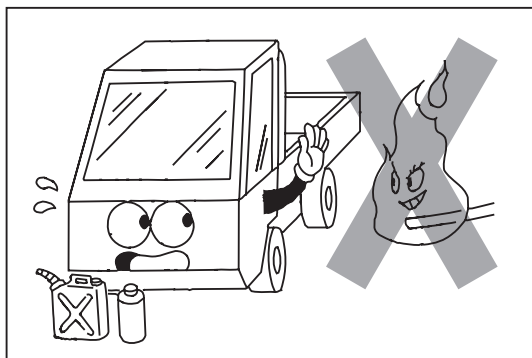
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服装を心がけ、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。

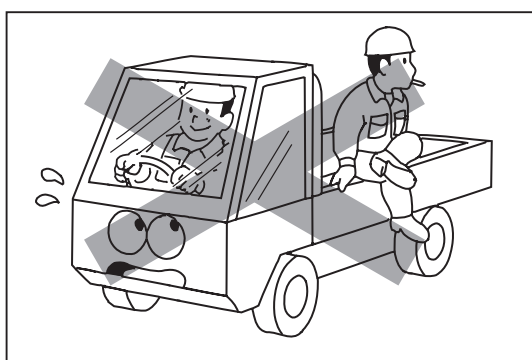


始業点検の励行

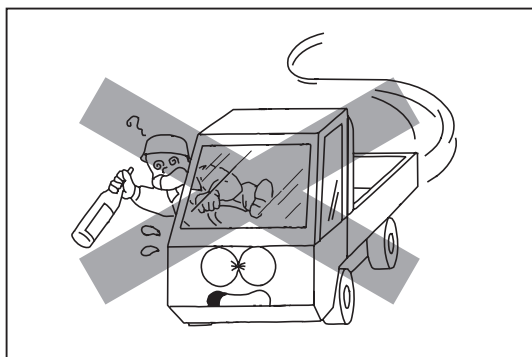
運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。

**火気厳禁**

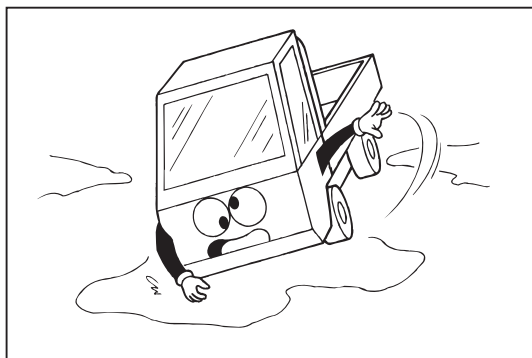
燃料、油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、バッテリーの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。

**同乗禁止**

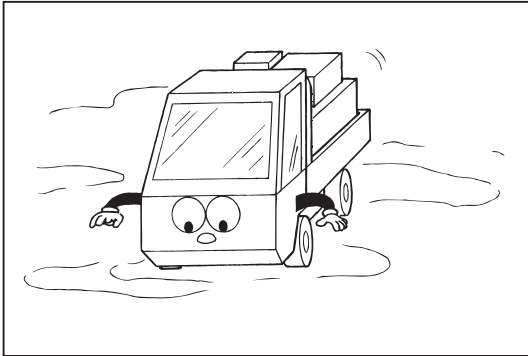
本製品は一人乗りです。運転者以外は乗せないでください。

**無謀運転禁止**

飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない人による運転・作業も行わないでください。

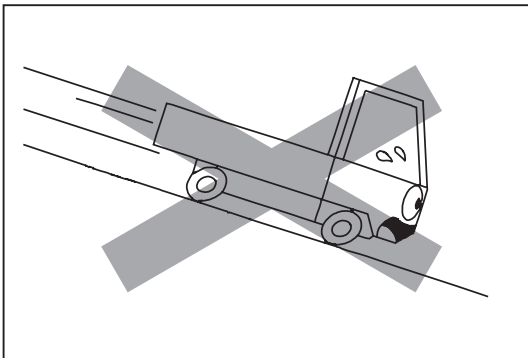
走行時の心得**急発進、急加速、急旋回、急ブレーキの禁止**

急発進、急加速、急旋回および急ブレーキは避け、安全運転を心掛けてください。発進の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。



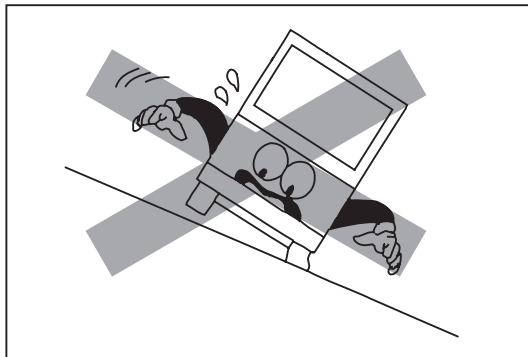
安全速度遵守

走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。
また公道を走行する場合は、交通状況に応じた適切な速度で走行してください。



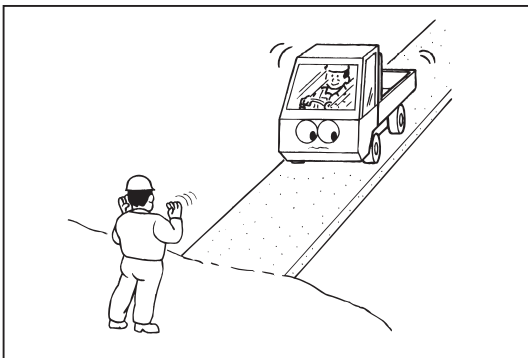
下り坂ではエンジブレーキを

下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、エンジブレーキを必ず使用して減速を行ってください（4輪駆動に切換えると、さらに効果的にエンジブレーキを得ることができます）。フットブレーキを使用しすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。



斜面での横断禁止

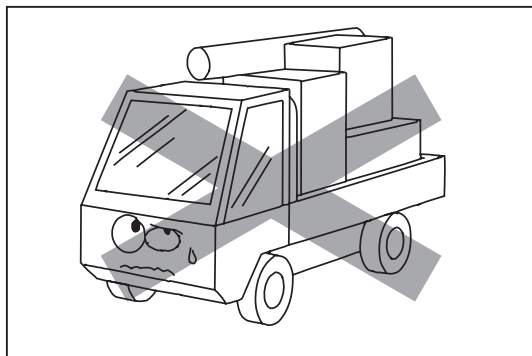
傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面を横断すると、転倒のおそれがあり危険です。



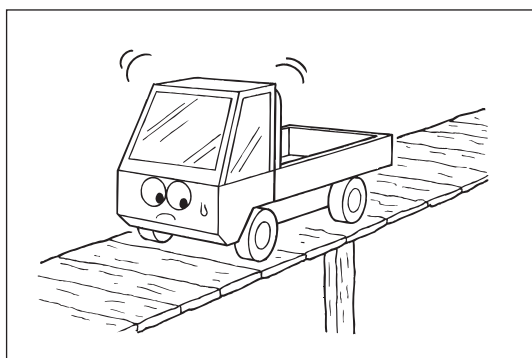
危険な場所では誘導者の指示に従う

見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

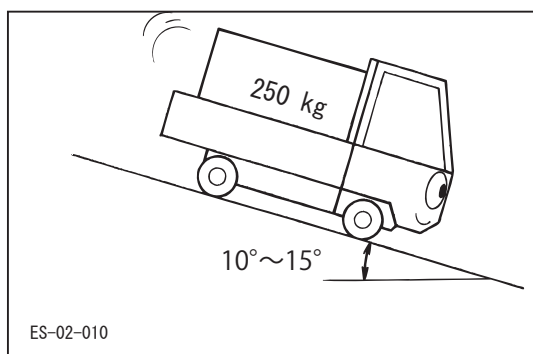
積載時の心得

**過積載禁止**

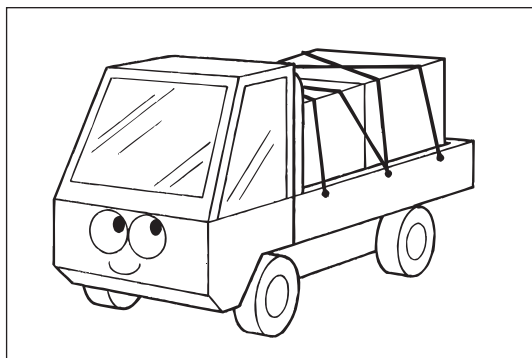
本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。

**制限重量に注意**

木橋等を渡る時は、本製品の機械重量と積載量の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。

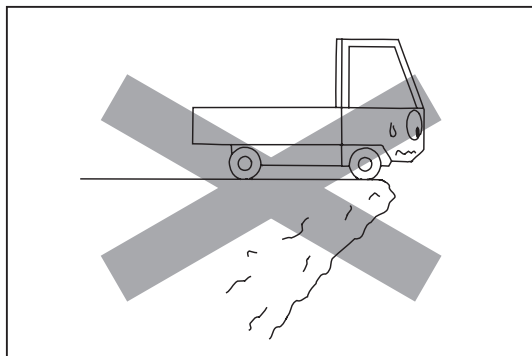
**傾斜地での積載量に注意**

10° ~15° の傾斜地では、積載量を250kg以下にして走行してください。15° を超える急傾斜地では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転をしてください。

**積み荷は正しく載せる**

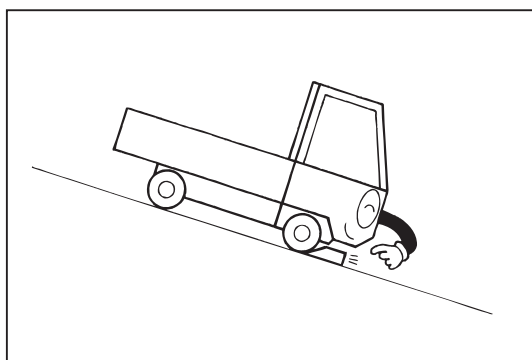
積み荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定するよう心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

駐車時の心得



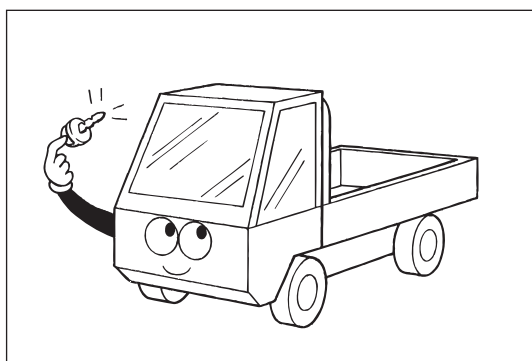
危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、危険な場所での駐停車はしないでください。



坂道での輪止め励行

坂道での駐車は避けてください。やむなく坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実にかけ、変速ギヤを前進または後進1速に入れた後、輪止めをしてください。

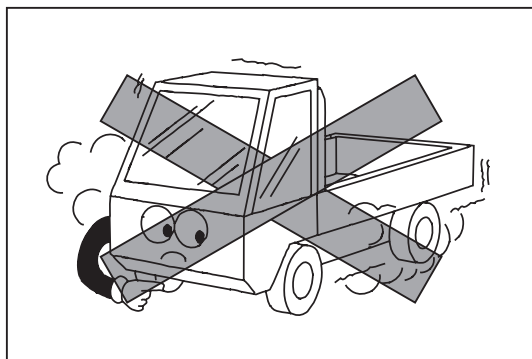


駐車時の安全確認

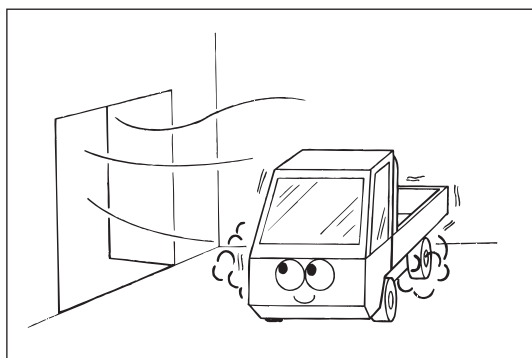
駐車時は、駐車ブレーキを必ずかけ、エンジン停止を励行してください。

また、キーを忘れずに抜いてください。

整備時の心得

**エンジン回転中の整備禁止**

エンジン回転中は準備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備をしてください。

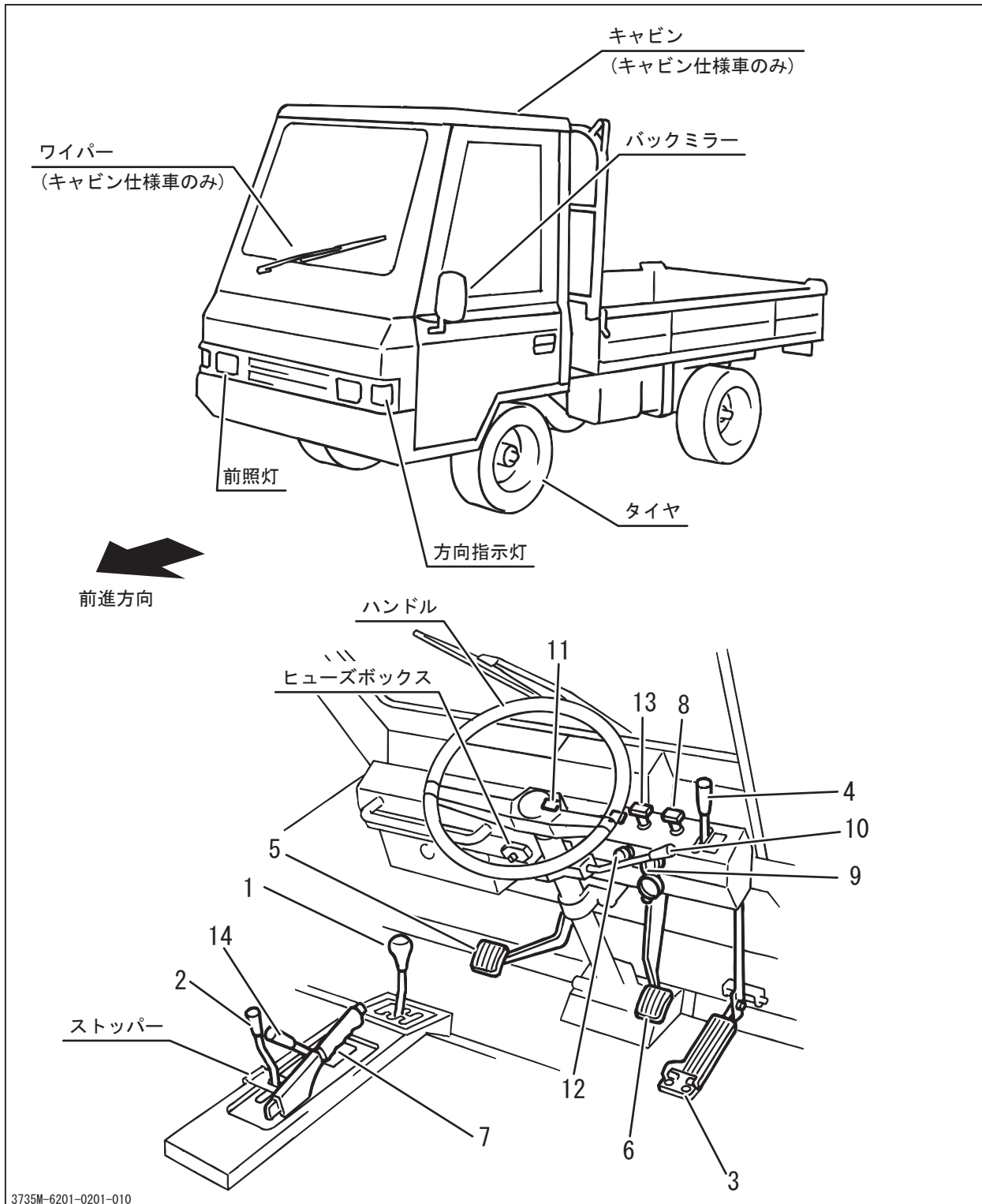
**換気に注意**

室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。

各部の名称とはたらき

⚠ 注意

・キャビン仕様車のキャビンは幌式のため、完全防水仕様ではありません。



- 1 変速レバー …… 走行速度の選択に使用します。変速はクラッチペダルを踏み込み、車体が停止した状態で行ってください。
※前進3、4速は走行中でも変速可能です。
- 2 ダンプレバー …… 荷台の「上昇」、「下降」を行う時に使用します。
- 3 アクセルペダル …… エンジン回転数の増減を行います。
- 4 アクセルレバー …… エンジン回転数の増減を行い、一定回転数を保持します。
- 5 クラッチペダル …… エンジンからトランスミッションへの動力を断続させます。クラッチペダルを踏み込むとクラッチが「切」の状態になります。
- 6 ブレーキペダル …… 車体の停止、又は減速を行う時に使用します。
- 7 駐車ブレーキレバー …… 車体を確実に駐車させます。レバーを引くとブレーキがかかります。解除する時は、レバーを軽く引き上げ先端のボタンを押して下へ戻します。
- 8 ライトスイッチ …… スイッチを引くと前照灯が点灯します。
- 9 エンジンキースイッチ …… エンジンを始動および停止させます。
- 10 方向指示灯／ホーン …… 方向指示灯およびホーンを作動させるのに使用します。
コンビネーションスイッチ
- 11 パイロットランプ …… 方向指示灯と連動してランプが点滅します。
- 12 チョークレバー …… レバーを引くとチョーク弁が閉じ、戻すと開きます。エンジン始動時に引っ張り、始動後戻します。
- 13 ワイパースイッチ …… ワイパーを作動させるのに使用します。
(キャビン仕様車のみ)
- 14 2WD⇔4WD切替レバー 後輪駆動(2WD) 4輪駆動(4WD)の切替時に使用します。

本製品の仕様

 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名 称 ・ 型 式			ELL803	
			M(キャビン無)	MU(キャビン付)
機 械 質 量	kg		530	570
最 大 作 業 能 力	kN(kg)		4.90 (500)	
使 用 温 度 範 囲			-10℃～+40℃	
使 用 標 高 範 囲			1500m 以下	
機 械 寸 法	全 長	mm	3250	
	全 幅	mm	1185	
	全 高	mm	1180	1695
	ホイールベース	mm	1700	
	トレッド	mm	前 915 / 後 880	
	最低地上高	mm	155	
	床 面 高 さ	mm	660	
荷 箱	荷 箱 内 側 寸 法	長 さ	mm	1845
		幅	mm	1080
		高 さ	mm	230
エ ン ジ ン	名 称	ミツビシ GB290		
	形 式	空冷4サイクルガソリン		
	シリンダ(内径×行程)	mm	80.0×59.0	
	総 排 気 量	cm ³ (cc)	296 (296)	
	最 大 出 力	kW(PS)/rpm	5.8(8.0)/2000	
	連 続 定 格 出 力	kW(PS)/rpm	4.4(6.0)/1800	
	最 大 ト ル ク	N・m(kgf・m)/rpm	35.3(3.6)/1400	
	始 動 方 式	セルフスタータ式		
	使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン		
	燃 料 消 費 率	g/kW・h(g/PS・h)	530 (390)	
	燃 料 タ ン ク 容 量	ℓ	16	
	潤 滑 油 容 量	ℓ	1.0	
	バ ッ テ リ 形 式	40B19R		
	バ ッ テ リ 電 圧	12		
	バ ッ テ リ 5 時 間 率 容 量	28		
点 火	点 火 方 式	電子点火		
	点 火 プ ラ グ 品 番	BPR5ES		

名 称 ・ 型 式					ELL803			
					M	MU		
走 行 性 能	走 行 速 度	前 進	1	速	km/h	2.7		
			2	速	km/h	4.8		
		3	速	km/h	9.5			
		4	速	km/h	14.3			
	後 進	1	速	km/h	2.7			
		2	速	km/h	4.8			
	最 小 回 転 半 径					m	2.95	
	登 坂 能 力					度	25(空車)	
トランスミッション油量					ℓ	2.7		
デフアレンシャル(デフ)油量					ℓ	0.7		
動 力 伝 達 装 置	ク ラ ッ チ 形 式					乾式多板式		
	主 変 速 形 式					選択嚙合式、常時嚙合式(3,4速のみ)		
	操 向 装 置 形 式					車体屈折+前輪操舵		
	ブ レ ー キ 形 式					内拵式ブレーキ		
	タ イ ヤ					前 20×8.00-10/後20×8.00-10		
ダ ン プ 装 置	ダ ン プ 方 式					一方ダンブ		
	荷 台 形 式					箱型三方開き		
	油 圧 ポ ンプ	形 式					ギヤポンプ式	
		定 格 回 転 数					rpm	1500
		定 格 吐 出 量					ℓ/min	6.7
		リ リ ー フ 設 定 圧					MPa(kgf/cm ²)	13.7(140)
	シリンダ(内径×行程)					mm	55×200	
性 能	最 大 上 昇 角 度					度	52	
	上 昇 時 間					sec	4	
	下 降 時 間					sec	3	
油 圧 作 動 油 量					ℓ	1.7		

※この仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。

付属品明細

チェック	No.	部 品 名	個 数	備 考
<input type="checkbox"/>	1	取扱説明書	1	本書
<input type="checkbox"/>	2	エンジン取扱説明書	1	
<input type="checkbox"/>	3	エンジン工具	1式	

運転と操作

本章を読む前に第1章「安全運転・作業のための心得」（☞3ページ～8ページ）を必ずお読み下さい。

運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないでください。

⚠ 注意

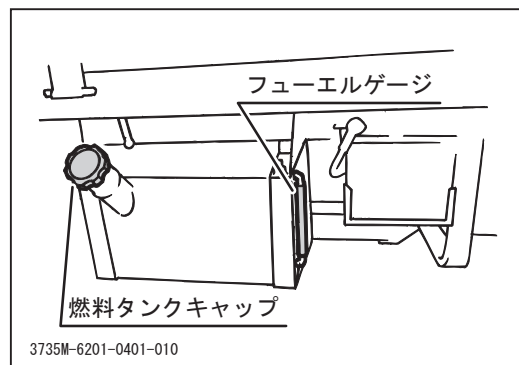
- ・ 本製品は農地などにおける運搬作業を主目的とした自動車(ダンパ)です。荷物を積載した状態での公道走行はできません。

運転前の準備

燃料の給油

⚠ 警告

- ・ 給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近付けないでください。引火の原因となります。
- ・ 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- ・ エンジン停止直後はエンジンが高温になっているため、給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。こぼれた際には速やかにふき取ってください。



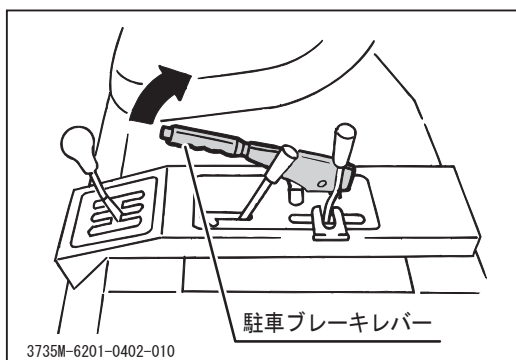
1. フューエルゲージを目視点検し、燃料が不足している場合は、燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。
使用燃料：自動車用無鉛ガソリン
燃料タンク容量：16ℓ

運転のしかた

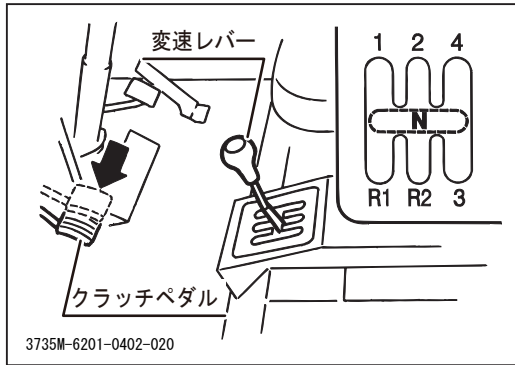
始動のしかた

⚠ 注意

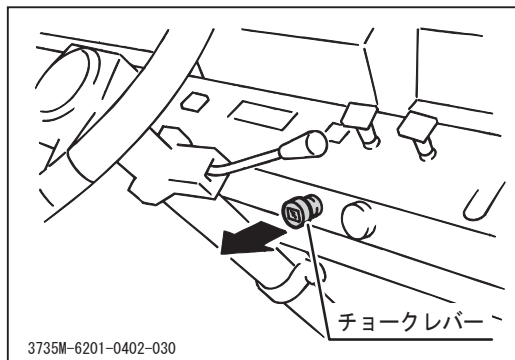
- ・ エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを引く必要はありません。
- ・ 本機は始動安全装置を装備しているため、クラッチペダルを踏み込まないと、エンジンは始動しません。
- ・ 始動しない場合、5秒以上連続してセルモータを回さないでください。キーを「入」位置に戻し、10秒位休んでから再始動するようにしてください。
- ・ 頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したら、しばらく連続運転して、バッテリーを充電するようにしてください。
- ・ エンジン回転中は、キースイッチを「始動」位置に絶対に回さないでください。セルモータの破損の原因になります。
- ・ 本機の使用可能温度範囲は-10℃～40℃です。この範囲外での温度では使用しないでください。
- ・ 購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、高負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。




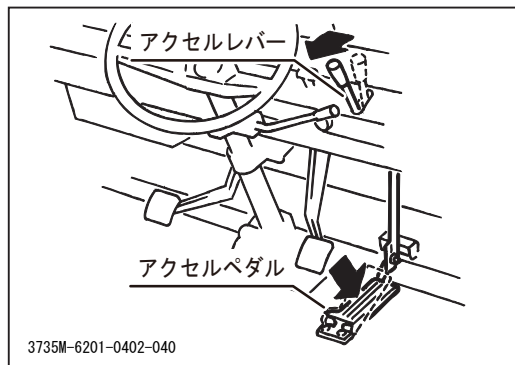
1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。



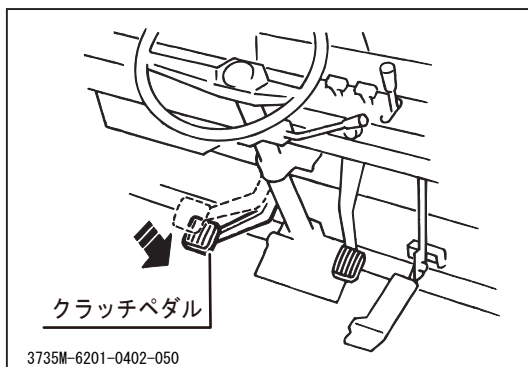
- クラッチペダルを踏み込み、変速レバーを「N (ニュートラル)」の位置にします。



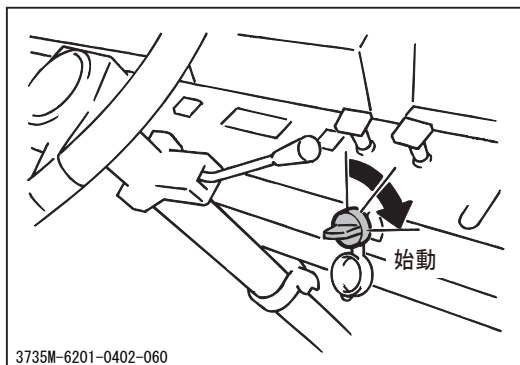
- チョークレバーを引き、「全開 ()」の位置にします。



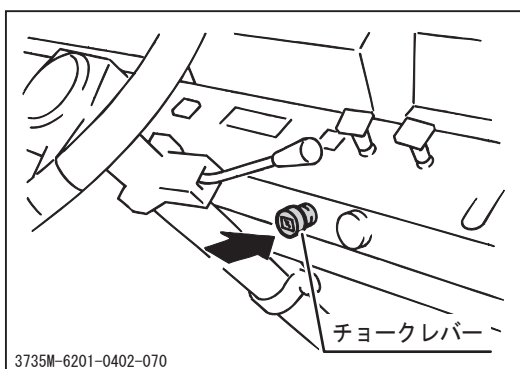
- アクセルペダルを軽く踏み込むか、またはアクセルレバーを軽く引いて「低速」と「高速」の中間位置にします。




- クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。



6. エンジンキーを差し込み、「始動」位置まで回し、エンジンを始動させます。
7. エンジンが始動したら、直ちにエンジンキーから手を離します。



8. アクセルレバーを「低速」側に戻します。
9. アクセルペダルから足を離します。
10. クラッチペダルから足を離します。
11. チョークレバーを「全開 ()」の位置に戻し、3～5分間暖気運転をします。

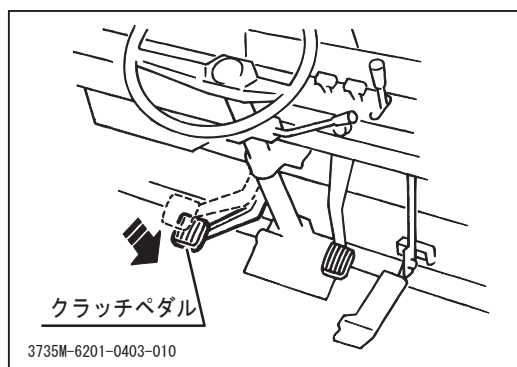
運転のしかた

⚠ 危険

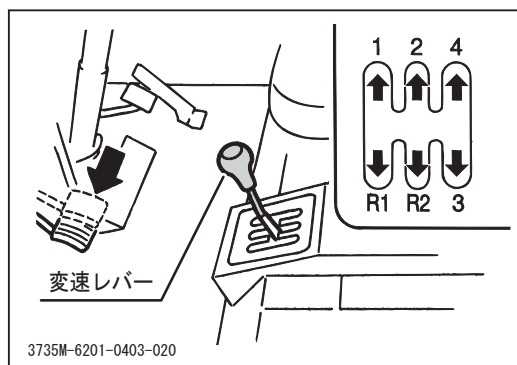
- ・ 変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときは、無理に入れずに、クラッチペダルを一旦離して再度踏み込み、確実にギヤチェンジを行ってください。
- ・ 高速走行での急旋回は転倒のおそれがあり、危険です。

⚠ 注意

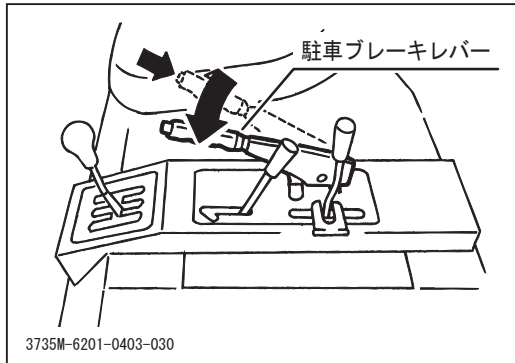
- ・ 4速での発進はなるべく避けてください。
- ・ クラッチペダルを急に上げると、エンストする場合があります。
- ・ 3速から4速または4速から3速への変速を除き、走行中の変速はできません。必ず車体を停止させてから変速操作を行ってください。



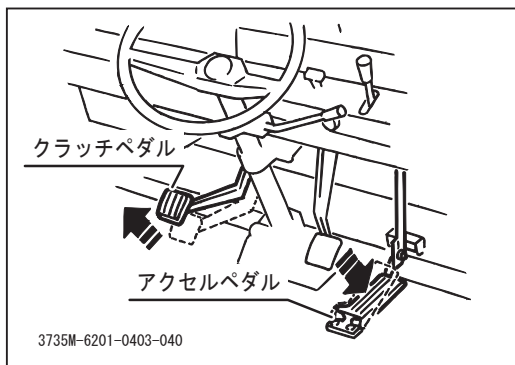
1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。



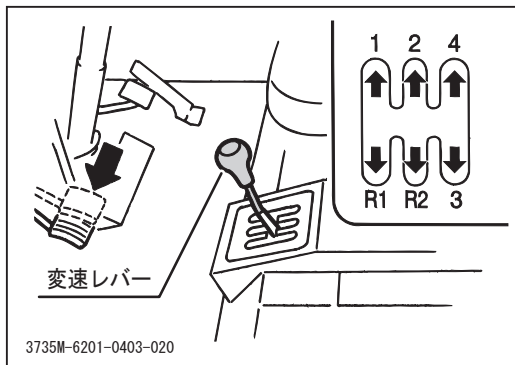
3. 変速レバーを前進（1速～4速）または後進（R 1速～R 2速）の任意の変速位置に確実に入れます。（各変速位置での走行スピードについては、「製品仕様」を参照してください。☞11ページ）



4. 駐車ブレーキレバーを解除します。

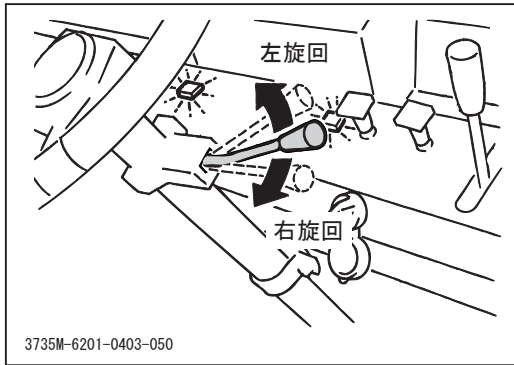


5. アクセルペダルを軽く踏み込み、エンジン回転数を上げておきます。
6. クラッチペダルを徐々に上げ（半クラッチ）、車体をゆっくり発進させます。



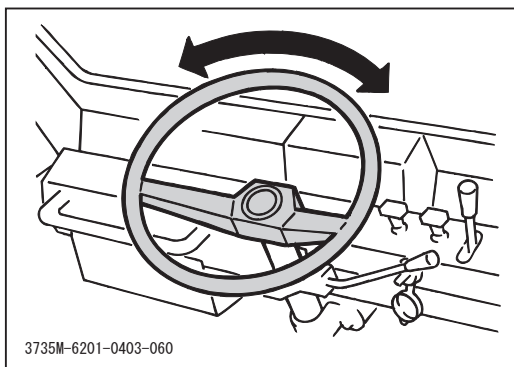
(変速する場合)

7. 車体を停止させた後、前ページ1～3の操作を行います。（車体の停止のしかたについては、「停止のしかた」を参照してください。
☞19ページ）



(旋回する場合)

8. 方向指示灯／ホーンコンビネーションスイッチを旋回したい側（図示参照）に動かします。（旋回する側のパイロットランプが点滅します。）

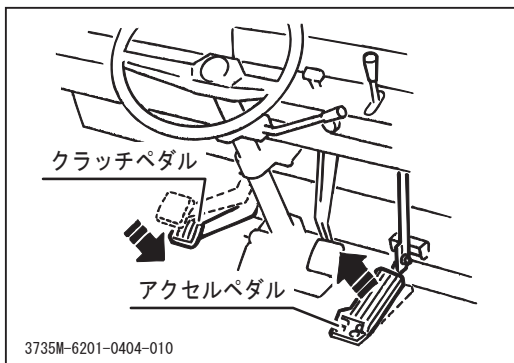


9. ハンドルを左側または右側に切り、旋回します。

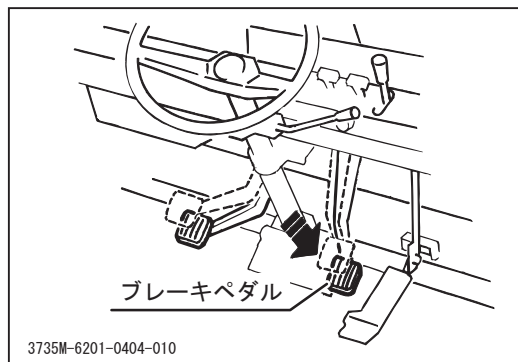
停止のしかた

⚠ 注意

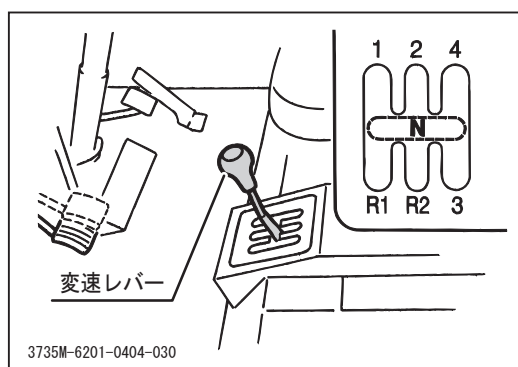
- ・キースイッチを「入（ON）」のままにしておくと、バッテリーから各回路に電流が流れ続け、バッテリーの上がりの原因になります。



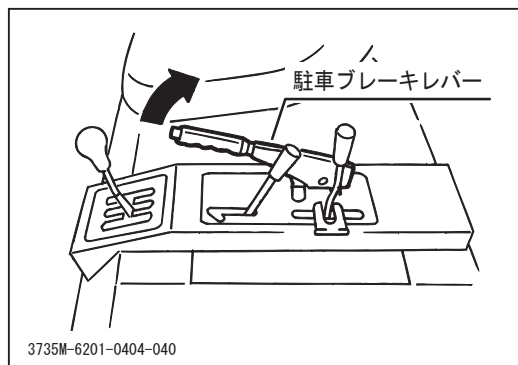
1. アクセルペダルから足を離し、エンジンの回転数を落とし、車体を減速させます。
2. クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。



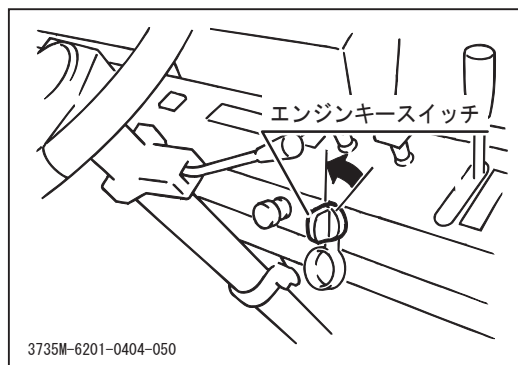
3. ブレーキペダルを徐々に踏み込みます。



4. 車体が完全に停止したら、変速レバーを「N（ニュートラル）」の位置にします。



5. 駐車ブレーキを確実にかけます。
6. クラッチペダルから足を離します。
7. ブレーキペダルから足を離します。



8. エンジンキースイッチを「切（OFF）」の位置に回し、キーを抜き取ります。

ダンプ操作

⚠ 危険

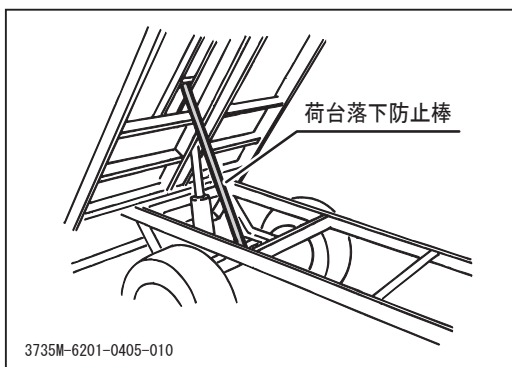
- ・ 荷台を上昇したまま荷台下等の点検を行なう場合は、危険防止のため、本体に備え付けの荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えてください。
- ・ ダンプ操作時は周囲の安全確認を必ず行ってください。

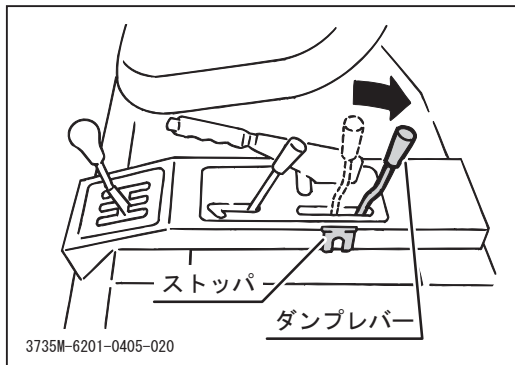
⚠ 警告

- ・ 急傾斜地でのダンプ操作は、車体が不安定になり、非常に危険ですので、お避けください。やむを得ず坂道でのダンプ操作を行なう場合は、走行部にりん木等を敷き、車体を水平にしてご使用ください。

⚠ 注意

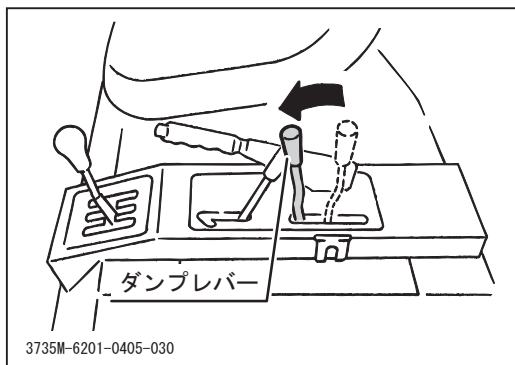
- ・ 荷物を積載したまま荷台を下降させる場合、車体に衝撃を与えないよう、エンジン回転数を低くして荷台をゆっくり下げてください。
- ・ ダンプ操作は必ずエンジンをかけた状態で行ってください。





荷台を上昇させる場合

1. エンジンを始動し、アクセルレバーを「高速」の位置にして、エンジン回転数を上昇させます。
2. ダンプレバーのストッパを取外します。
3. ダンプレバーを「上昇」の位置に徐々に倒します。
4. 荷台が上限まで上がるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。



荷台を下降させる場合

1. ダンプレバーを「下降」の位置に徐々に倒します。
2. 荷台が下限まで下がるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。
3. ダンプレバーのストッパを取付けます。

2WD・4WD切替操作

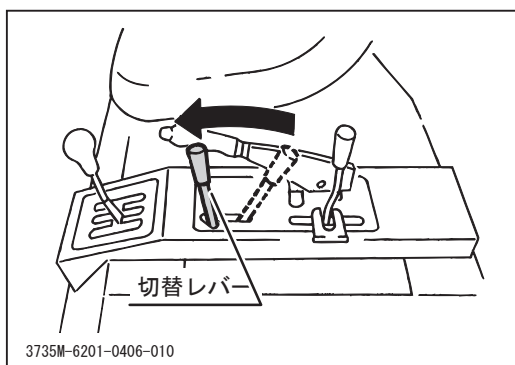
警告

- ・急な下り坂では、4WDを使用してください。2WDではブレーキをかけたとき、後輪が滑り、事故につながるおそれがあります。

注意

- ・天候および路面状況に応じて、2WD（2輪駆動）と4WD（4輪駆動）の切替操作をしてください。通常走行時は2WDを選択し、下記の状況下では4WDを必要に応じて選択してください。

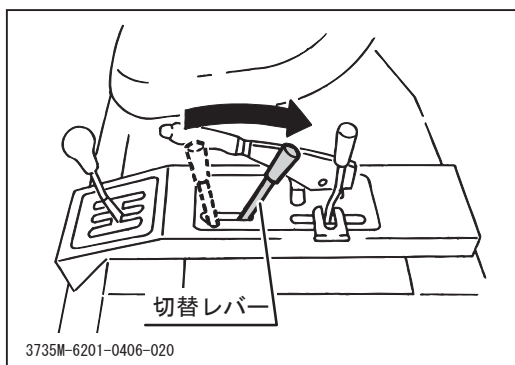
濡れて滑りやすい路面、積雪時、凍結路
山道、急坂路、湿った砂地



2WD→4WDへの切替え

切替レバーを「入」の方へ入れます。

「入」の位置に保持され、走行中でも切替えできます。



4WD→2WDへの切替え

切替レバーを「切」の方へ戻します。

定期点検表

 注 意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

- ・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。
- ・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考	
		始業	月次	年次		
原 本 機	始 動 性	エンジンの始動が容易で異音がないこと	○	○	○	
	回 転 の 状 態	アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数が正規の回転数であり、回転が円滑に続くこと		○	○	販売店に点検を依頼してください
		エンジンを加速した時にスロットルレバーの引っかかり、エンジン停止、ノッキングが起こらないこと	○	○	○	
	排 気 の 状 態	エンジンを十分に暖気した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音が正常であること	○	○	○	
		排気管、マフラ等からの排気漏れがないこと		○	○	
	エ ア ク リ ー ナ	ケースの亀裂、変形および接続管の緩みがないこと		○	○	
		エレメントに著しい汚れまたは損傷がないこと		○	○	清掃/交換：☞38ページ
	締 付 け	シリンダヘッドおよびマニホールドの締付け部のボルトおよびナットに緩みがないこと ※これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合はこの検査を省略してもよい			○	
	弁 隙 間	弁隙間が正規であること ※弁隙間の異常による異音がなく、エンジン回転に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください

項目		点検内容	点検時期			備考	
			始業	月次	年次		
原	本	圧縮圧力			○	販売店に点検を依頼してください	
		エンジンマウント	エンジンベースに亀裂または変形がないこと	○	○	○	
			取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	動	潤滑装置	防振ゴムの損傷または劣化がないこと	○	○	○	
			油量が適正で著しい汚れがないこと	○	○	○	点検/交換：☞31ページ
		燃料装置	ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等から著しい油漏れがないこと	○	○	○	
			燃料タンク、ホース、パイプ等から燃料漏れがないこと	○	○	○	
	機	電気装置	燃料ホースに損傷または劣化がないこと	○	○	○	
			フューエルフィルタに著しい汚れまたは詰まりがないこと		○	○	清掃：☞40ページ
		点火プラグ	電極に消耗がなく、カーボンの堆積がないこと			○	清掃/交換：☞39ページ
バッテリー		電解液の量が規定範囲内にあること		○	○	点検/補給：☞36ページ	
		端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○		
配線	接続部に緩みがないこと		○	○			
動力伝達装置	クラッチ	配線に損傷がないこと		○	○		
		アイドリング状態でクラッチを切った時に異音がなく、クラッチが完全に切れること	○	○	○	調整：☞41ページ	
		クラッチを徐々に接続した時に滑りがなく、接続が円滑であること	○	○	○	調整：☞41ページ	
	Vベルト	クラッチペダルの遊びが適正であること		○	○	点検：☞41ページ	
		亀裂、損傷がなく油脂類の付着がないこと		○	○	点検：☞41ページ	
		Vベルトの張りが適正なこと		○	○	点検/調整：☞41ページ	

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考	
		始 業	月 次	年 次		
動力伝達装置	トランスミッション (ディファレンシャル含む)	走行時にギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	点検：☞32ページ
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	プロペラシャフト	クラッチをつないだ時に異音または異常振動がないこと		○	○	
		亀裂、損傷または変形がないこと		○	○	
タイヤ ホイール		タイヤの空気圧および溝の深さが規定値内であること	○	○	○	点検：☞45ページ
		タイヤおよびホイールに亀裂、損傷または偏摩耗がないこと	○	○	○	
		タイヤの溝に金属片、石等の異物のかみ込みがないこと	○	○	○	
		ホイールボルトおよびハブナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		ホイールベアリング部にガタ、異音または異常発熱がないこと		○	○	
制動装置	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	調整：☞43ページ
		ブレーキペダルの遊びが適正であること		○	○	調整：☞43ページ
	駐車ブレーキ	駐車ブレーキ作動時に1/5勾配で停止状態を保持できること	○	○	○	調整：☞43ページ
	ロッド リンク ワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと	○	○	○	
	連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと	○	○	○		
油圧装置		パッケージ内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	
		油圧パッケージ周辺からの油漏れがないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
		ブリーザに目詰まりのないこと			○	
	パワー パッケージ	パイプおよびホースとの継手部、シール部等からの油漏れがないこと		○	○	
		油圧パッケージ作動時に異常振動、異音または異常発熱がないこと		○	○	
		パッケージに負荷をかけて、負荷時の吐出量および吐出圧力が基準値内であること *前項の検査で異常が無ければこの検査は省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください

項目	点検内容	点検時期			備考	
		始業	月次	年次		
車 体 ・ 安 全 装 置 等	車 お よ び 体	枠 亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷 台	ドアの開閉が円滑に行えること	○	○	○	
		亀裂、変形または摩耗がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	荷台落下防止棒	荷台落下防止棒に変形がないこと		○	○	
	マ ー ク	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	
	前 照 灯	正常に点灯すること	○	○	○	
		レンズに破損または水等の浸入がないこと		○	○	
	方 向 指 示 灯	方向指示灯およびパイロットランプが正常に点滅すること	○	○	○	
		レンズに破損または水等の浸入がないこと		○	○	
	ホ ー ン	正常に鳴ること	○	○	○	
	バックミラー	汚れ、破損、脱落がないこと	○	○	○	
	シートベルト	ベルトの表面の亀裂がないこと	○	○	○	
確実にロックできること		○	○	○		

給油・給水一覧表

項 目	補 給 (交 換) 時 期	推 奨 品	容 量
燃 料	随時	自動車用無鉛ガソリン	16ℓ
エ ン ジ ン オ イ ル	補給 毎日点検し不足時に補給 交換 初回：20時間 2回目以降：50時間毎	ガソリンエンジン車 API分類 SD級以上 SAE分類 10W-30	1.0ℓ
トランスミッションオイル	交換 初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類 GL4または5 SAE分類 #80	2.7ℓ
ディファレンシャル (デフ)オイル	交換 初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類 GL4または5 SAE分類 #80	0.7ℓ
パワーパッケージ オ イ ル	補給 100時間毎に点検し 不足時に補給	タービン油 ISO：VG32 JIS：#90	1.6ℓ
グリースニップル	補給 半年毎 *購入後半年は給脂不要	シャーシグリース	-
各 摺 動 部	補給 半年毎 *購入後半年は給脂不要	ギヤオイル API分類 GL4または5 SAE分類 #80	-
バ ッ テ リ 液	毎月点検し不足時に補給	蒸留水	-

給脂・注油一覧表

！ 注 意

・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂を行ってください。

👉 アドバイス

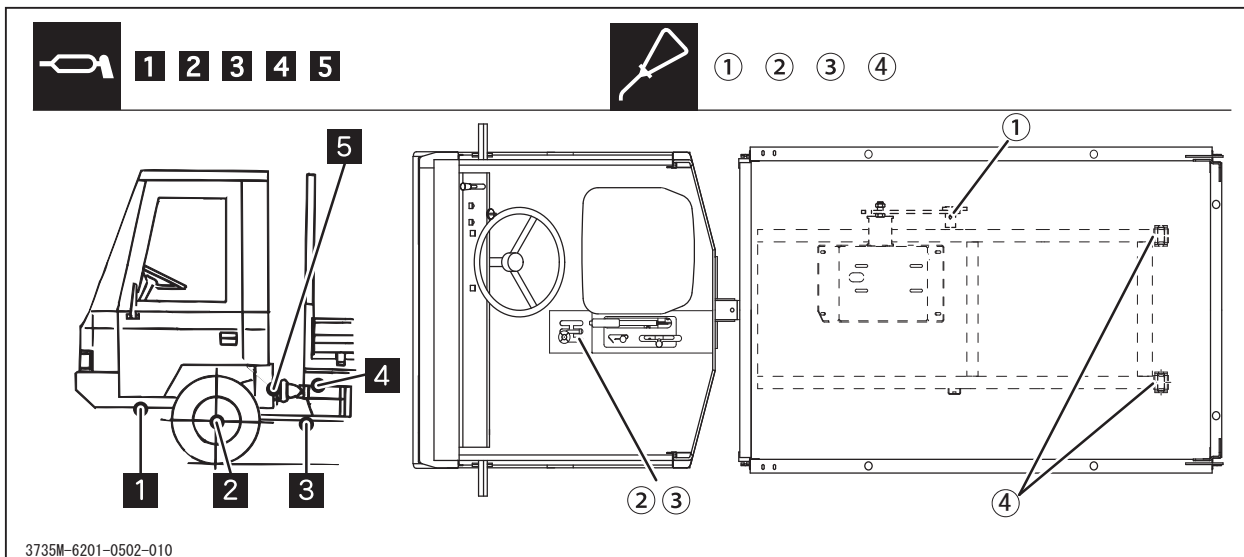
- ・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
- ・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。

給脂・注油一覧表

給脂箇所は下の表とイラストにあるとおりです。

給 脂 箇 所	補 給 時 期	推 奨 品
1 中 間 ア ー ム	半年毎	シャーシグリース
2 フ ロ ン ト ナ ッ ク ル	半年毎	シャーシグリース
3 プ ロ ペ ラ シ ャ フ ト ボ ス	半年毎	シャーシグリース
4 ロ ー リ ン グ パ イ プ 中 央 部	半年毎	シャーシグリース
5 ロ ー リ ン グ パ イ プ 取 付 部	半年毎	シャーシグリース
① テ ン シ ョ ン ア ー ム の 軸	半年毎	ギヤオイル API分類 GL4または5 SAE分類 #80
② チ ェ ン ジ ア ー ム の 軸	半年毎	
③ 各 リ ン ク 部	半年毎	
④ 荷 台 取 付 部	半年毎	

購入後半年は給脂不要です。



消耗部品（交換部品）一覧表

 注意

・消耗部品の交換時は必ず当社指定部品を使用してください。

項 目	部品番号	交 換 イ ン タ ー バ ル	個 数
エンジン			
クリーナエレメント	KA40088AA	不具合があれば交換	1
点火プラグ(BPR5ES)	KE41005AA	不具合があれば交換	1
フューエルパッキン	KF31035AA102	不具合があれば交換	1
ワイヤ（エンジンコントロール）	37070106001	不具合があれば交換	1
ワイヤ（チョーク）	37090102000	不具合があれば交換	1
走行装置			
タイヤ	37052212000	不具合があれば交換	4
タイヤ（AGタイヤ）	37052203000	不具合があれば交換	4
チューブ	37052204000	不具合があれば交換	4
Vベルト（SB48レッド）	08521300048	不具合があれば交換	2
ブレーキシューセット（センター）	73019901000	不具合があれば交換	1
ブレーキシューセット（ホイール）	72019901000	不具合があれば交換	2
ワイヤ（駐車ブレーキレバー）	37093117000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（クラッチペダル）	37093211000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（ブレーキペダル）	37093115000	不具合があれば交換	1
油圧系統			
Vベルト（SB41）レッド	08521300041	不具合があれば交換	1
電装品			
バッテリー（40B19R）	37053901000	不具合があれば交換	1
ヒューズ（メイン：20A）	-	不具合があれば交換	1
ヒューズ （ウインカー、ハザード：5A）	-	不具合があれば交換	2
ヒューズ（15A）フューエルポンプ	-	不具合があれば交換	1
バルブ（前照灯：12V15W）	09808121509	不具合があれば交換	2
バルブ （方向指示器ルーフ付き：12V5W）	09808120508	不具合があれば交換	2

 アドバイス

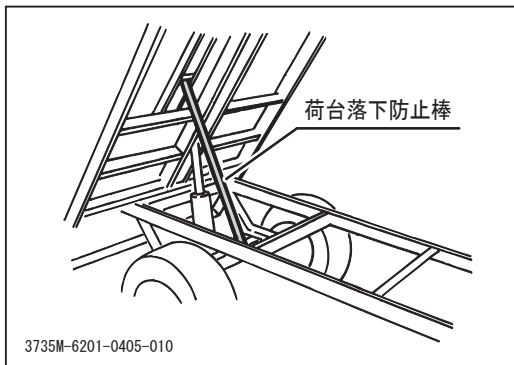
- ・ホースなどのゴム製品は使わなくても劣化する消耗品ですので、2年毎に新品と交換してください。

給油

エンジンオイル

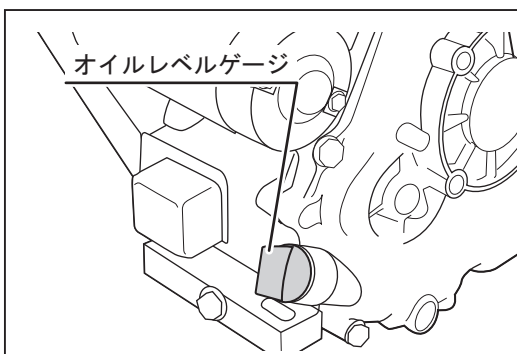
！ 注 意

- ・ 給油がおろそかになると、回転が円滑に行われなくなり、故障の原因となり機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。
- ・ オイル高温時には火傷のおそれがあります。
- ・ 廃油は適切な処理をしてください。



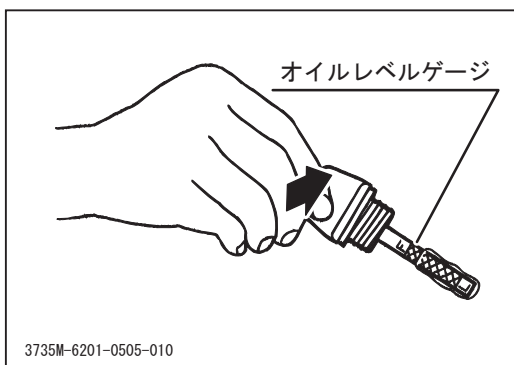
点検前の準備

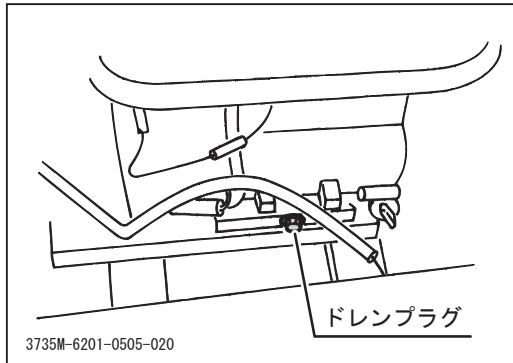
1. エンジンを始動します。(☞14ページ)
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。(☞21ページ)
3. エンジンを停止します。(☞19ページ)



点検/補給

1. オイルレベルゲージを取外します。
2. エンジンオイル量および汚れを目視点検し、規定量でない場合および汚れがひどい場合は、エンジンオイルを補給または交換します。
使用オイル：☞28ページ
エンジンオイル量：
オイルレベルゲージの上の刻み線または「F」と「L」の間
(「F」以上は入れないでください。)
3. オイルレベルゲージを取付けます。





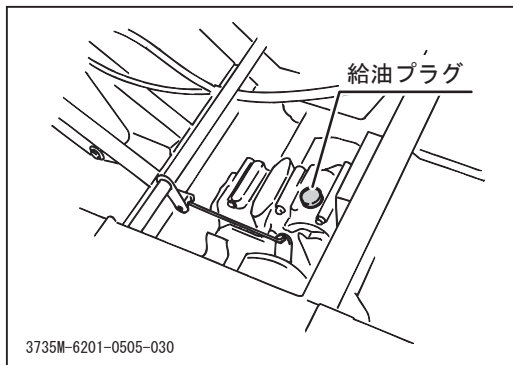
交換

1. オイルを抜取る適切な容器を用意します。
2. オイルドレンプラグを取外し、クランクケース内のオイルを排出します。
3. オイルドレンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。

トランスミッションオイル

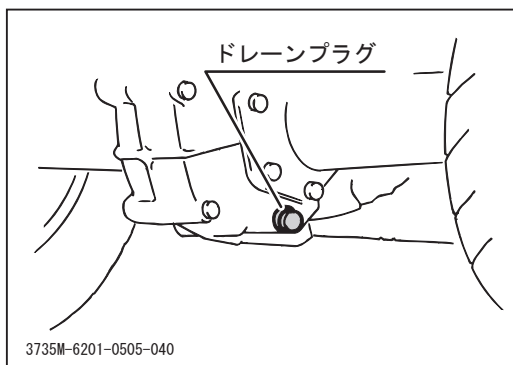
⚠ 注意

- ・ オイル高温時には火傷のおそれがあります。
- ・ 廃油については適切な処理をしてください。



点検/補給

1. 荷台を上昇させ、落下防止棒で確実に荷台を支えます。(☞21ページ)
2. 給油プラグを取外します。
3. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。
使用オイル：☞28ページ
4. 給油プラグを取付けます。



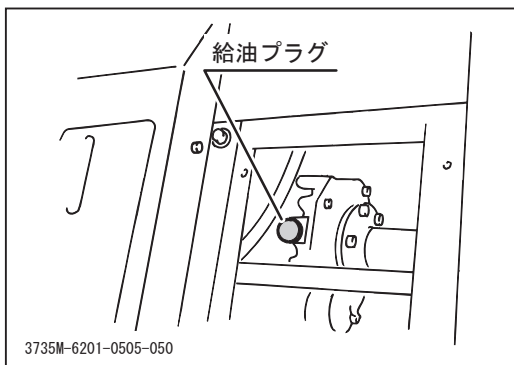
交換

1. オイルを抜取る適切な容器を用意します。
2. ドレンプラグを取外し、オイルを抜取ります。
3. ドレンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。

ディファレンシャル（デフ）オイル

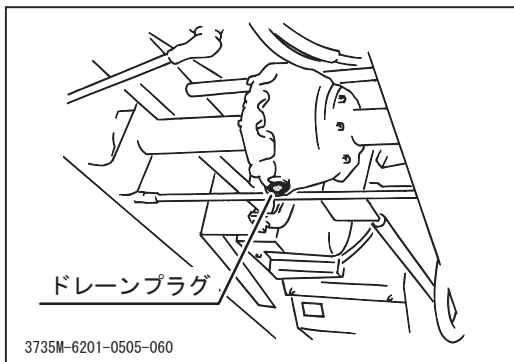
⚠ 注意

- ・ オイル高温時には火傷のおそれがあります。
- ・ 廃油については適切な処理をしてください。



点検/補給

1. シートおよびシート取付け用ブラケットを外します。
2. 給油プラグを外します。
3. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。
使用オイル：☞28ページ
4. 給油プラグを取付けます。



点検/補給

1. オイルを抜取る適切な容器を用意します。
2. ドレインプラグを外し、オイルを抜取ります。
3. ドレインプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。（上記「点検/補給」を参照）

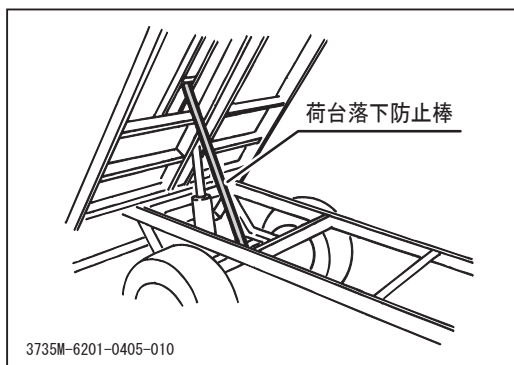
👉 アドバイス

- ・ 給油プラグを取外すと、オイルが抜取りやすくなります。

パワーパッケージオイル

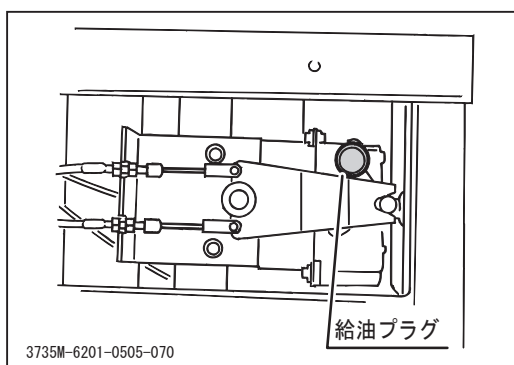
⚠ 注 意

- ・ オイルが減るとホースおよびシリンダ内に空気が入り、ダンプの昇降スピードが遅くなったり、ハンドルが重くなるなどの現象が現われますので、100時間毎にオイルの点検を行ってください。
- ・ 荷台上昇時には、オイルレベルはレベルゲージの下端まで下がります。オイル量はオイルレベルが下端以下の場合に補給が必要です。
- ・ エンジンを始動し、荷台を上昇させると、最初はエアが入っていますのでノックしますが、2～3回繰り返しますと正常な状態になります。
- ・ 廃油は適切な処理をしてください。

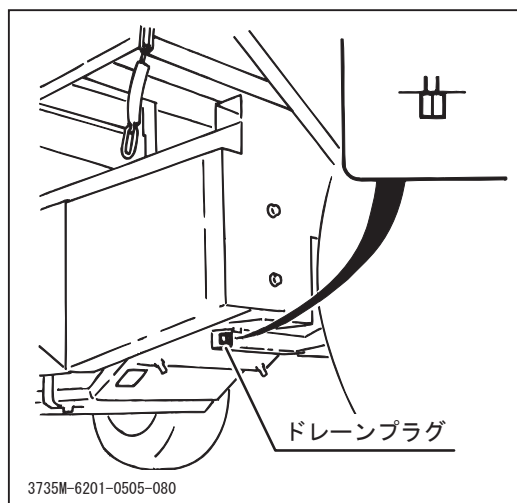


点検/補給

1. 荷台を上昇させます。(☞22ページ)
2. 荷台落下防止棒で確実に荷台を支えます。



3. 給油プラグ（レベルゲージ付き）を取外します。
4. オイル量を目視点検し、オイルが不足している場合はオイルを補給します。
5. 給油プラグを取付けます。
6. 荷台を下降させます。(☞22ページ)
7. エンジンを再始動し、オイルを循環させます。



交換

1. オイルを抜取るための適切な容器を用意します。
2. ドレインプラグを取外します。
3. ドレインプラグを取付けます。
4. 給油キャップを開け、オイルを注入します。

給水

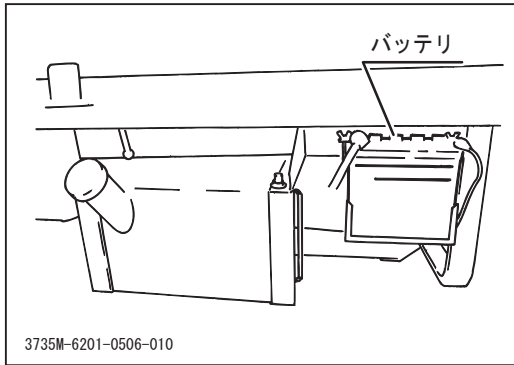
バッテリー液

 危険

- ・ バッテリから発生するガスは引火性があるため、バッテリーに火気（煙草の火等）を絶対に近付けないでください。爆発するおそれがあります。

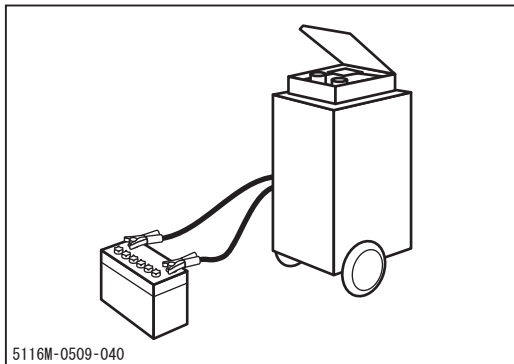
 注意

- ・ バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。付着したまま放置すると、バッテリー液（希硫酸）によって、やけどすることがあります。
- ・ バッテリーの点検および取外しのときにはエンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。
- ・ バッテリーは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。
- ・ バッテリーにコードを接続するときは、+と-を間違えないようにしてください。一度でも間違えるとヒューズが飛び、バッテリーが充電できなくなります。
- ・ バッテリーからコードを外すときは-側、取付けるときは+側から行ってください。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。
- ・ バッテリーを取外し、再度取付けるときにはバッテリーの+、-のコードを元どおりに配線し、周りに接触しないように締め付けてください。
- ・ 急速充電法は、短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。この方法は応急的処置として行うものです。作業が終わったらなるべく早く、正しく補充電をしておいてください。補充電をしておかないと、バッテリーの寿命は極端に短くなります。



点検/補給

1. バッテリー液の量を目視点検し、必要な場合はバッテリー液を補給します。
 バッテリー液量：基準線（上および下）の間
 バッテリー液：蒸留



充電

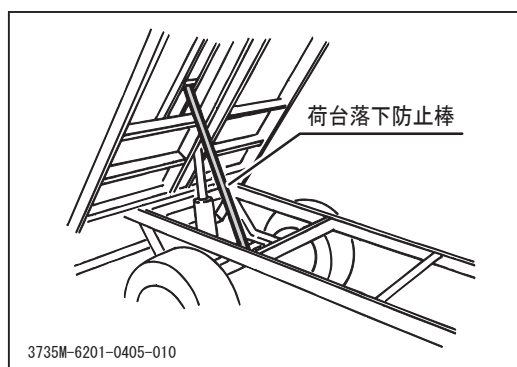
1. バッテリーを取外します。
2. バッテリーの+と充電器の+、バッテリーの-と充電器の-をそれぞれ接続して充電します。
 （使用する充電器の「取扱説明書」の指示に従ってください。）

清掃

エアクリーナエレメント

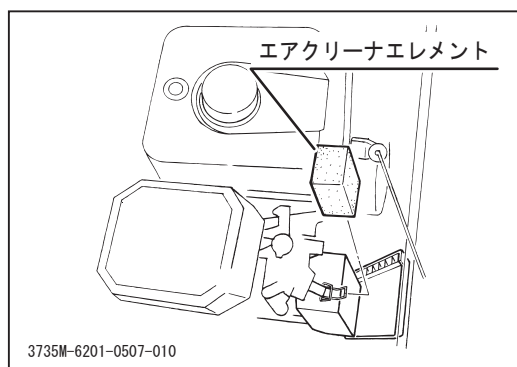
 注意

- ・ エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起こすため、定期的（50時間運転毎）に清掃するよう心掛けてください。
- ・ エアクリーナエレメントはエンジンの種類によって乾式、半湿式、オイルバス式などのタイプがあります。清掃方法は各タイプで異なりますので、付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、正しく清掃を行ってください。



清掃/交換

1. 荷台を上昇させます。（☞22ページ）
2. 荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。
3. エンジンを停止します。

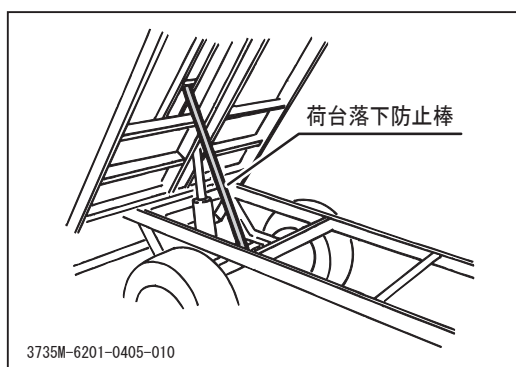


4. スパナを使い、エアクリーナカバーを取外します。
5. エアクリーナエレメントを取外します。
6. 付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、エアクリーナエレメントを清掃します。

点火プラグ

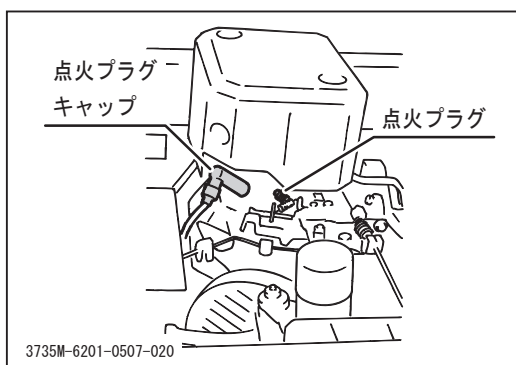
⚠ 注意

- ・ 点火プラグキャップを取外すときは、コードを引っ張らず、必ずキャップを持って取外してください。

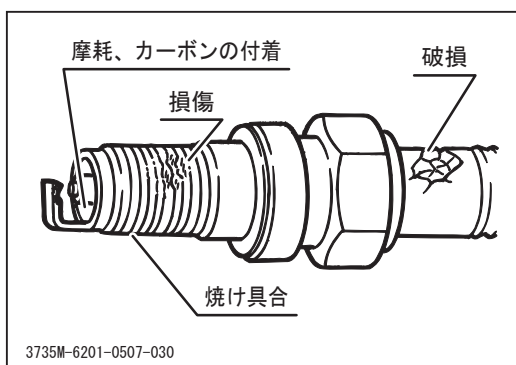


点検

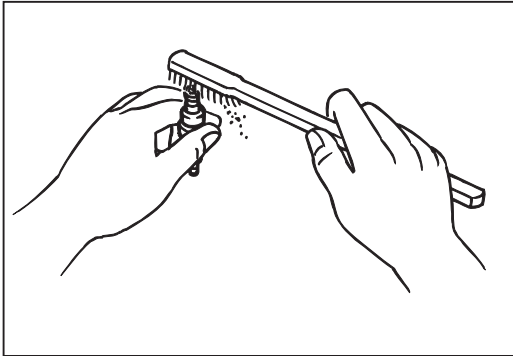
1. 荷台を上昇させます。(☞22ページ)
2. 荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。
3. エンジンを停止します。



4. 点火プラグキャップを取外します。
5. プラグレンチを使用して点火プラグを取外します。

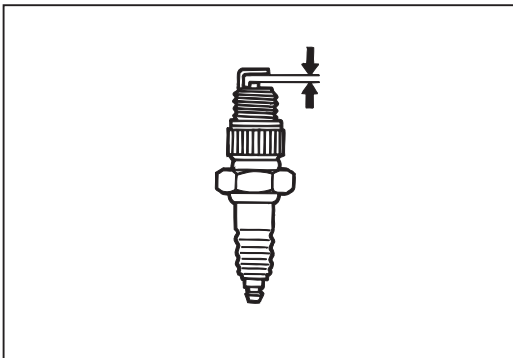


6. 次の点検を行い、不具合があれば清掃または交換します。
(点火プラグの仕様：☞11ページ)
 - ・ 絶縁体破損の有無
 - ・ 電極の消耗状況
 - ・ カーボンの堆積
 - ・ ガスケットの損傷、破損
 - ・ 火花部碍子の焼け具合



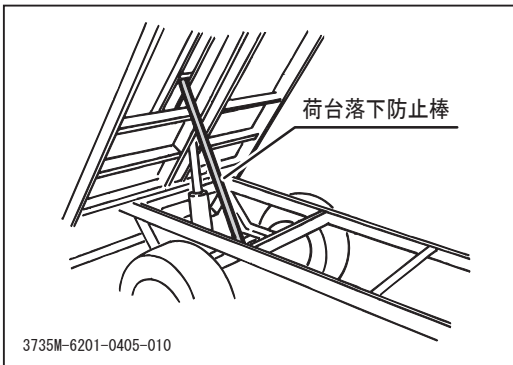
清掃

1. ワイヤ・ブラシ、プラグ・クリーナで点火プラグを清掃します。



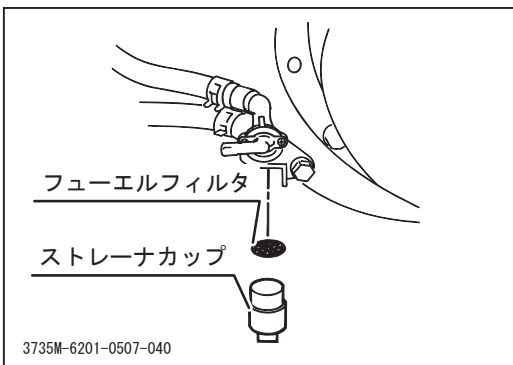
2. 電極（火花）すき間が下記の値になるように、紙ヤスリで磨いてすき間を調整します。
標準値：0.7 mm
3. 点火プラグを取付けます。

フューエルコック（フューエルフィルタ）



清掃

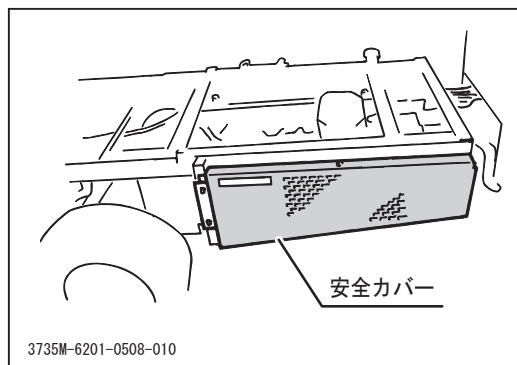
1. 荷台を上昇させます。（☞22ページ）
2. 荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。
3. エンジンを停止します。



4. フューエルコックを閉じます。
5. ストレーナカップを取外します。
6. ストレーナカップの底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）を除去します。
7. フューエルフィルタを新しいガソリンで洗浄します。

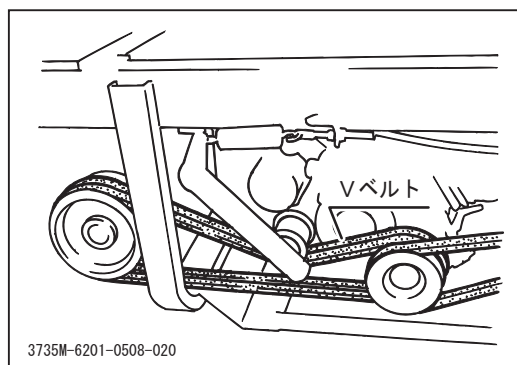
調整

Vベルト



点検

1. 安全カバーを取外します。



2. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。

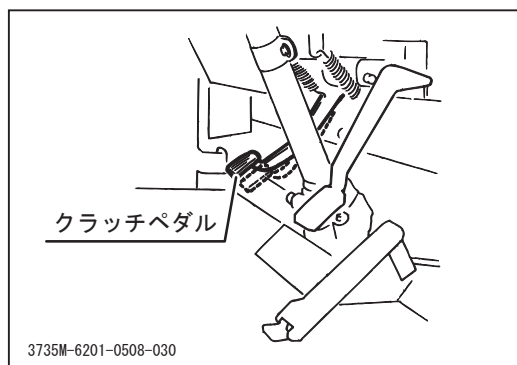
交換

販売店へ依頼してください。

クラッチ

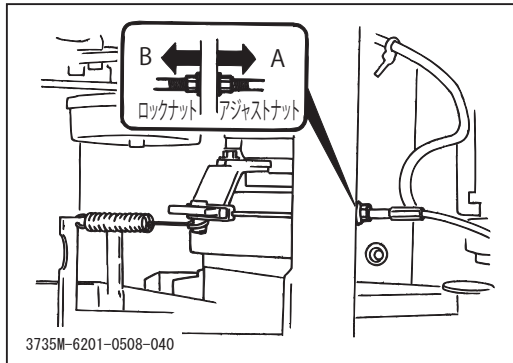
⚠ 注意

・遊びを設けすぎるとクラッチの切れの不良の原因となります。

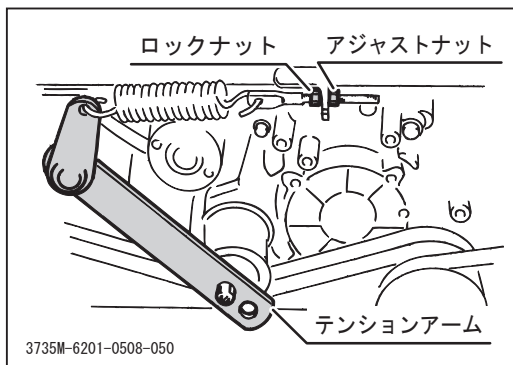


クラッチペダルの遊び

クラッチペダルは、クラッチ「入」（踏まない）の状態です。ペダルの先端での遊びが約 30 ～ 40mm 程度にセットされていますが、長期の使用で遊びが少なくなってきたら、クラッチワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットで調整してください。

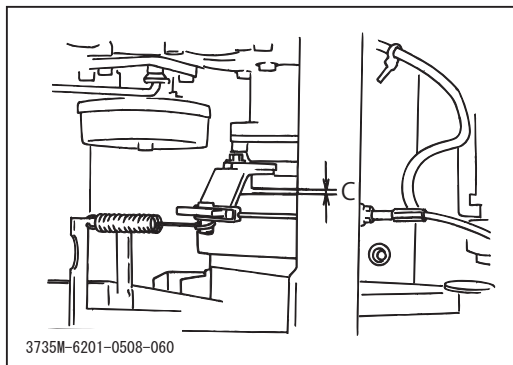


- ・クラッチペダルの遊びが少ない場合
アジャストナットをAの方向へ
- ・クラッチペダルの遊びが多い場合
アジャストナットをBの方向へ



Vベルトの滑り

ロックナットを緩めた後、アジャストナットを矢印の方向へ締めて、テンションアームにてベルトを張ってください。



クラッチの滑り

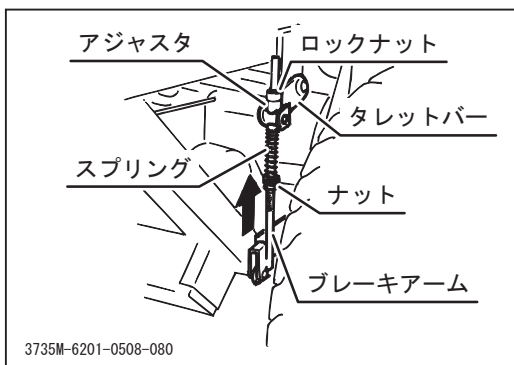
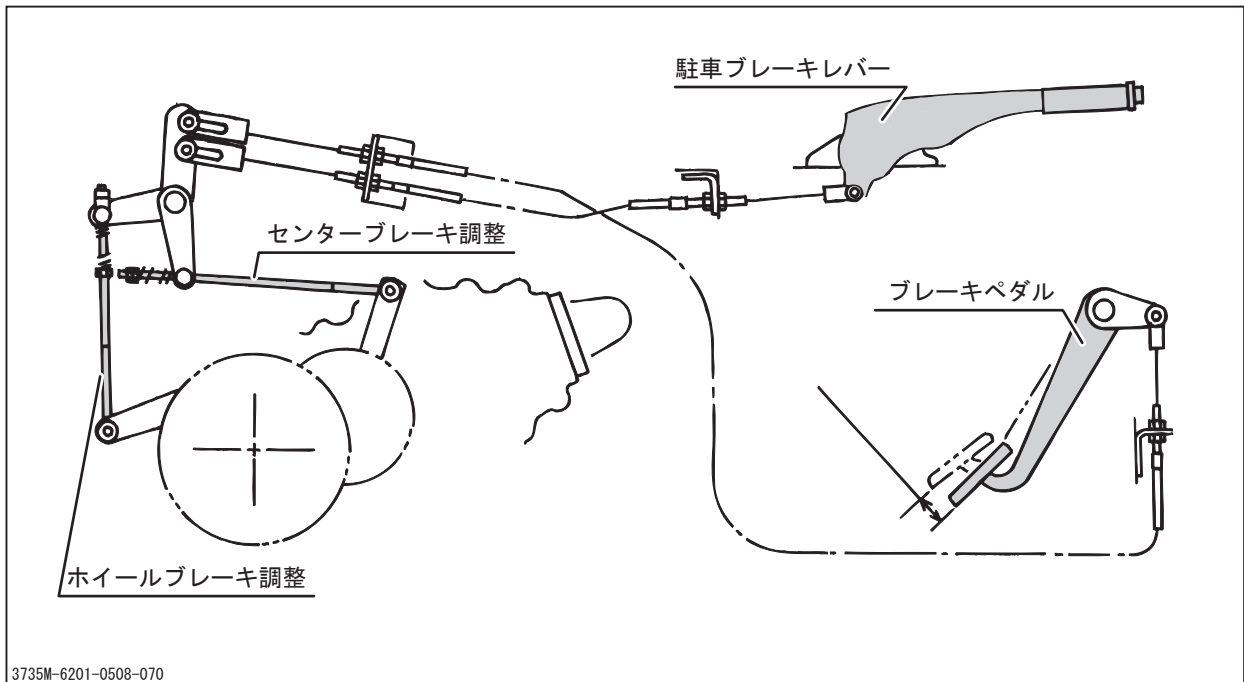
クラッチ板が摩耗して左図のすきまCがなくなり、クラッチが滑る場合は、クラッチ板の交換が必要です。(販売店へ依頼してください。)

ブレーキ

！ 注意

- ・最も重要な調整にブレーキ調整があります。少しでも甘くなったり、片効きするような場合は直ちに下記の調整を行い、常に安全を心がけるようにしてください。
- ・ブレーキを調整後に、駐車ブレーキを解除して、変速を「N」の状態、車体を押しで動くことを確認してください。

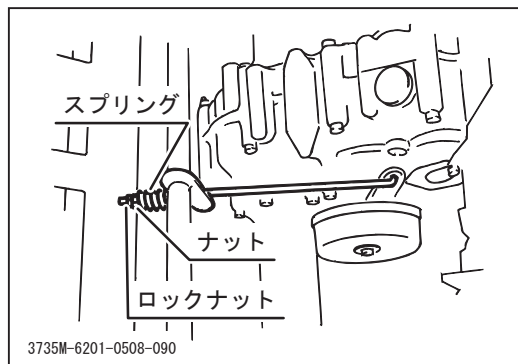
ブレーキ経路図



ホイールブレーキの調整

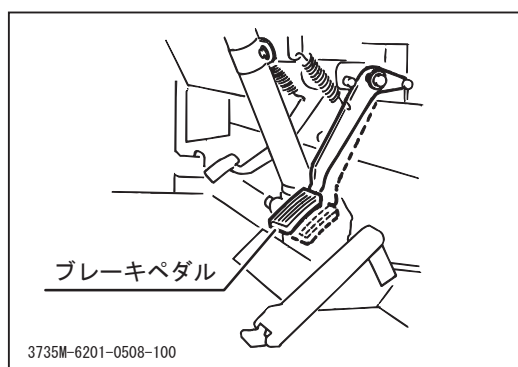
ブレーキライニングが摩耗した場合、特にこの調整が必要です。

1. 駐車ブレーキを解除させます。
2. ロックナットを緩め、ブレーキアームを上方へ押します。
3. アジャスタとタレットレバーの間隔が約5mmになるよう調整します。
4. スプリングが約10mm程度縮むようにナットで締め込みます。



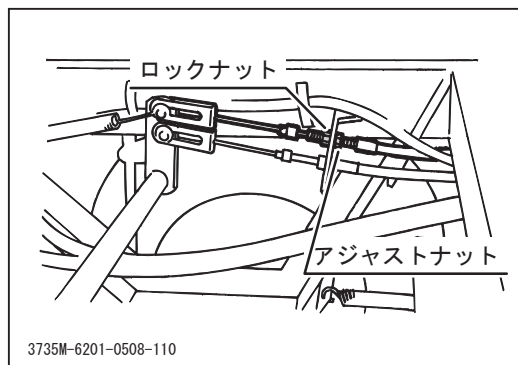
センターブレーキの調整

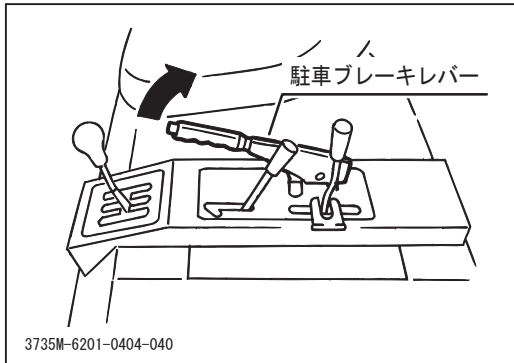
駐車ブレーキをいっぱい引いた状態でスプリングが約3mm程度縮むようにナットで締め込み、ロックナットで固定します。



ブレーキペダルの遊び

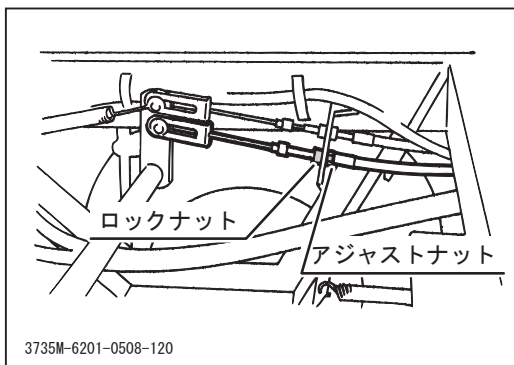
ホイールブレーキおよびセンターブレーキの調整後、ペダルを軽く押したとき遊びが先端で0～10mmになるよう、ブレーキワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットにて調整してください。



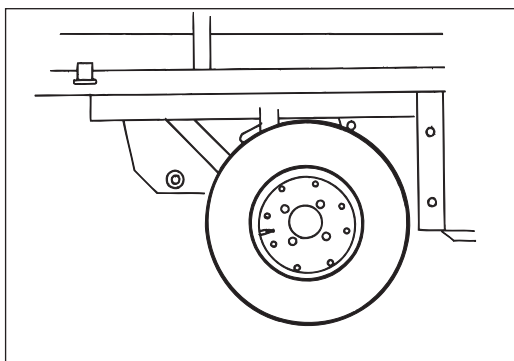


駐車ブレーキの調整

駐車ブレーキレバーを引いて、駐車ブレーキレバーのロックがおおよそ4～6ノッチで止まるよう、ブレーキワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットにて調整してください。



タイヤの空気圧



1. 前輪および後輪のタイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整します。

kgf/cm² (kPa)

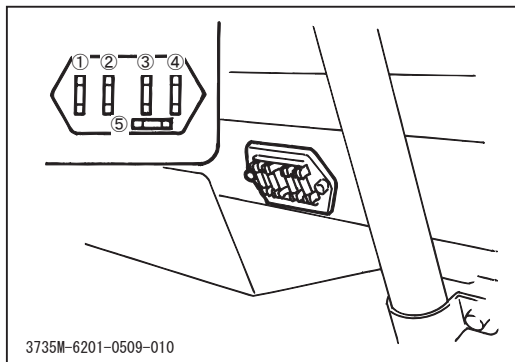
タイヤ種類	サイズ		空気圧
ターフ	前輪	20×8.00-10 (4PR)	1.6 (156.9)
	後輪	20×8.00-10 (4PR)	1.6 (156.9)
AG	前輪	20×8.00-10 (4PR)	2.4 (235.3)
	後輪	20×8.00-10 (4PR)	2.4 (235.3)

交換

ヒューズ

⚠ 注意

・ ヒューズの交換の際は、必ず同じ負荷容量のものと交換してください。



- ①メイン (20 A)
- ②ライトホーン (5 A)
- ③フラッシャ (5 A)
- ④燃料ポンプ・ワイパ (15 A)
- ⑤予備 (20 A)

使用後のお手入れ

注 意

- ・ エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・ 付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・ 凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
3. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

 警告

- ・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

 注意

- ・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。
- ・格納時にはエンジンが冷えてから、防水シートを本機にかけてください。
- ・バッテリー線を外す場合はマイナス（－）を先にプラス（＋）を後で外し、接続する場合はプラス（＋）を先にマイナス（－）を後で接続します。

1. 車両を停車します。
2. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. 外面を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。
4. エンジンオイルを交換します。
5. フューエルコックを「閉」の位置にして燃料の供給を停止します。
6. エアクリーナエレメントを清掃します。
7. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。
8. 車両からバッテリーを取り外し、バッテリー液の点検・補給を行います。
9. 駐車ブレーキレバーを引かずに、輪止めをします。
10. エンジンキーを抜きます。

 アドバイス

- ・バッテリーは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリーを長持ちさせることができます。
- ・エンジンの長期保管の詳細については付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。

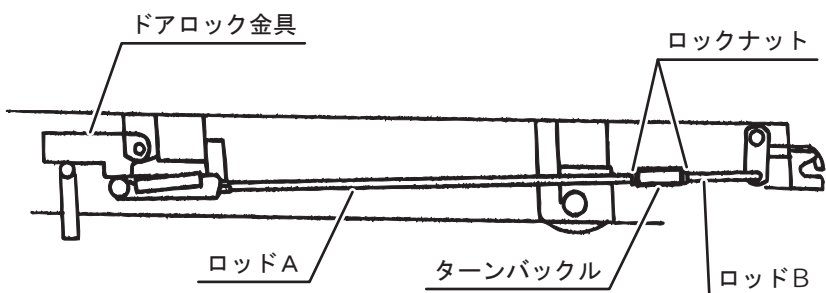
不具合診断表

- ・ 不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。
- ・ 下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
エンジン 関 連	エンジンがかからない またはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	13ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		バッテリーの容量不足 (セルモータの起動不良)	→バッテリー液を補給する →バッテリーを充電する →バッテリーを交換する	36ページ
		フューズ切れ	→交換する	46ページ
		電気配線の接触不良 または断線	→修理する(販売店へお 問い合わせください)	
		エンジンオイルの不足 または品質不良	→補給または交換する	31ページ
		点火プラグの汚れ等による 着火不良	→清掃または交換する	39ページ
		その他(上記以外)	→「始動のしかた」の手 順に従って再始動を試 み、始動不可能の場合 は販売店へお問い合わせ してください	
	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	13ページ
		フューエルコックが開い ていない	→フューエルコックを開 く	
		チョークレバーの戻し忘 れ	→チョークレバーを戻す	
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	13ページ
		エンジンオイル不足 またはオイル老化による 焼き付き	→点検および補給する	31ページ
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせ ください	

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
エ ン ジ ン 関 連	アイドリング不良(エンジン回転にムラがある)		→販売店へお問い合わせください	
	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		アクセルの調整不良	→販売店へお問い合わせください	
		Vベルトの緩み	→調整する	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	31ページ
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	38ページ
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る(排気状態の不良)	チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	38ページ
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る(排気状態の不良)	燃料不良	→交換する	
		エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後オイル量を調整する	31ページ
シリンダ、ピストンリングの摩耗		→販売店へお問い合わせください		
その他(上記以外)		→販売店へお問い合わせください		
アクセルレバーまたはペダルが引っかかる		→販売店へお問い合わせください		

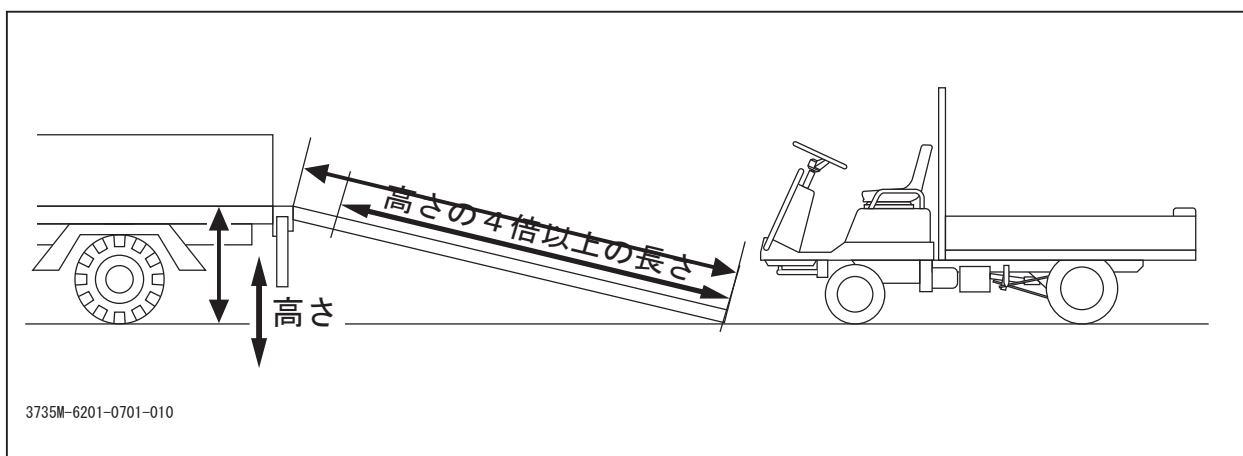
発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
動力伝達 装置関連	クラッチをつないでも車 体が動かない	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		ブレーキが効いている	→ブレーキを解除する	
		Vベルトの緩み	→調整する	
		トランスミッションの 故障	→販売店へお問い合わせ ください	
		その他（上記以外）	→「運転のしかた」の手 順に従って運転を試み、 走行不可能の場合は販 売店へお問い合わせく ださい	
	クラッチの切れが悪い	調整不良	→調整する	41ページ
	Vベルトが滑る	調整不良	→調整する	41ページ
	クラッチペダルの遊びが 過大または最小	調整不良	→調整する	41ページ
	トランスミッション付近 から異音がする	ギヤの損傷、ベアリング の摩耗	→販売店へお問い合わせ ください	
	変速できない	クラッチの調整不良	→調整する	41ページ
		ギヤの損傷、ベアリング の摩耗	→販売店へお問い合わせ ください	
	ギヤ抜けする	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		過積載	→積荷を減らす	
その他（上記以外）		→販売店へお問い合わせ ください		
制 動 装 置 関 連	ブレーキおよび駐車ブレ ーキの効きが悪いまたは 片効きする	調整不良	→調整する	43ページ
		ブレーキドラム内に水が 浸入	→何回かブレーキをかけ て中の水を乾かす	
		過積載	→積荷を減らす	
		タイヤの摩耗	→タイヤを交換する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせ ください	
	ブレーキペダルの遊びが 過大	調整不良	→調整する	43ページ
	駐車ブレーキの効き悪い	調整不良	→調整する	45ページ

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
荷台 関連	後ドアの開閉不良	ドアドアロックの調整不良	→ターンバックルを調整する(下記参照)	
				
ダンプ装置 関連	ダンプ装置が作動しないまたは作動不良	パワーパッケージのオイル不足または劣化	→給油または交換する	28ページ
		油圧系統からのオイル漏れ	→点検および修理	
		ベルトの張り不足	→販売店へお問い合わせください	
車体 関連	車体の異常振動	タイヤ空気圧	→タイヤの空気圧を調整する	45ページ
		タイヤ取付けボルトの緩み	→ボルトを締める	
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせください	
安全装置 関連	ライト、ランプの点灯不良	配線不良	→接続する	
		球切れ	→交換する	
		ヒューズ切れ	→交換する	46ページ

トラックへの積み降ろし要領

警告

- ・トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。
- ・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。
- ・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- ・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。
- ・前進でゆっくりと積み込んでください。
- ・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。
- ・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。
- ・変速ギヤを前・後進とも1速にし、4駆レバーを「入」にして、ゆっくりと昇り降りしてください。

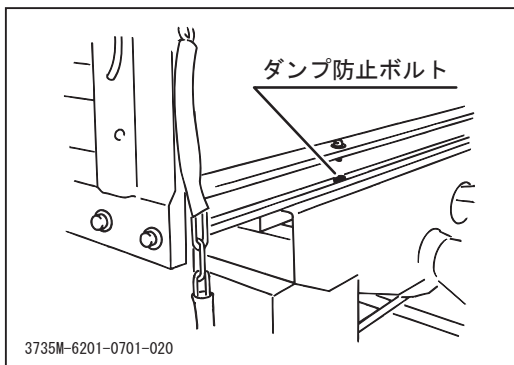


1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 前進にてゆっくりと積み込みます。
4. 車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。

本機での移送

▲ 注 意

- ・ 本機に小型運搬車等を積み込んで移送する場合は、ダンプ防止ボルトを取付け、荷台を必ず固定してから作業をしてください。

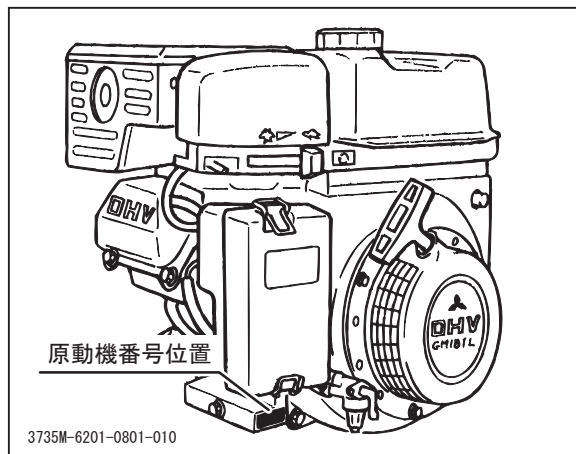


小型特殊自動車登録申請の手引き

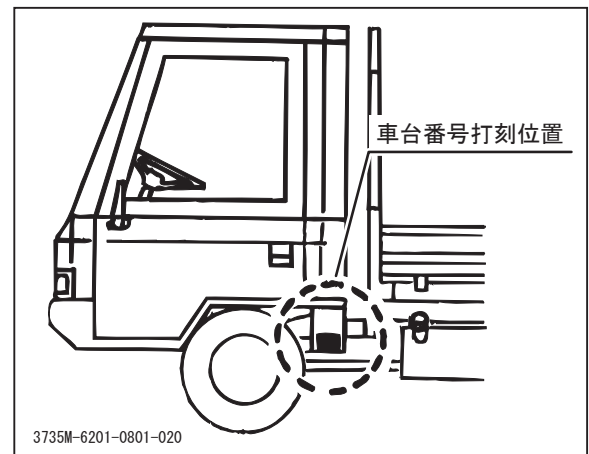
本製品の所有者となった方は、市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。手続きの詳細については市町村役場でお尋ねください。また、本製品は自賠責（自動車賠償責任保険）に加入する必要があります。

搭載エンジン	三菱 GB290
種別用途	小型特殊自動車
車名	チクスイELL802
型式	チクスイELL802
年式	年式は購入された年を記入してください
原動機番号	エンジンの打刻を見て記入してください
原動機総排気量	296cc
車台番号	車台番号は車体の左フェンダ部に打刻してあります
型式認定番号	保安基準適合
形状	ダンパ(ダンプ仕様車)

原動機番号位置



車台番号打刻位置



株式会社 筑水キャニコム

<https://www.canycom.jp/>

〒839-1396 福岡県うきは市吉井町福益90-1

.....
ご注文、製品に関するお問合せは

アドバンスオーダーセンター

TEL (0943)75-8055 FAX (0943)75-8060

.....
部品、修理に関するお問合せは

東日本パーツ・サービスセンター

TEL (0270)63-8201(代) FAX (0270)63-8200

西日本パーツ・サービスセンター

TEL (0943)75-3170(代) FAX (0943)75-5861

連絡先控え(販売店名)